瑞穂市 地域福祉計画策定のためのアンケート調査 結果報告書

令和2年3月 **瑞穂市**

目 次

調貨(りか	戏安	.1
-	1	調査の目的	1
2	2	調査の方法	1
3	3	回収結果	1
4	4	本調査報告書の基本的な事項	1
アン	ケー	- ト結果	.4
-	1	あなたご自身のことについて	4
2	2	地域とのかかわりについて	7
3	3	地域福祉について	10
4	4	ボランティア活動について	14
Ę	5	市の保健・福祉に関する情報の入手について	18
6	3	相談について	20
-	7	人権・権利擁護について	23
8	3	いのちの支え合いについて	29
Ş	9	社会福祉協議会、民生委員・児童委員について	36
1	10	これからの市の福祉環境について	39
アン	ケー	- ト調査票	1 9

調査の概要

1 調査の目的

市民がともに支え合う福祉社会の実現に向けた各種施策を推進するための「瑞穂市地域福祉計画」の見直し作業を進めるにあたり、市民の普段の暮らし方や考え方、市へのご意見をお寄せいただき、計画を策定するための基礎資料として実施します。

2 調査の方法

(1)調査対象

市内にお住まいの 18 歳以上のかた

(2) 抽出方法

無作為抽出(小学校区別)

(3)調査方法 郵送による調査票の配布・回収

(4)調査時期令和2年1月

3 回収結果

(1)配布数 2,000

(2)回収数 768

(3) 回収率 38.4%

4 本調査報告書の基本的な事項

- (1) 数値等の基本的な取扱いについて
 - ・比率は全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合もあります。
 - ・基数となるべき実数は、"n=000"として掲載し、各比率はnを 100%として算出しています。(回答者総数又は該当者数)
 - ・複数回答については、ひとりの回答者が2つ以上の回答を出してもよい設問であり、したがって、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
 - ・文中、グラフ中の設問カテゴリー(選択肢)の文言は、作図の都合上、簡略化する場合があります。
 - ・文中の選択肢は、基本的に「 」で表していますが、選択肢を2つ以上合わせて数値を 示す場合は " "で表してあります。

(2) 標本誤差(信頼度)について

統計調査のなかで、調べたい対象全体を調べる(悉皆調査)のではなく、標本すなわち調査対象である世帯や個人、施設などを一部抽出・選定して実施される調査を**標本調査**といいます。この標本調査では、調査した対象が、全体とは必ずしも一致しないことに起因する**標**

本誤差というものが存在します。すなわち、標本調査の結果として統計表などに示されている結果数値は、この標本誤差を含んだものとして見る必要があります。

標本誤差は、無作為標本調査による推計結果値が真の値からどのくらい離れているかの幅を示す数値です。

無作為抽出により実施した標本調査では、推計値の前後にそれぞれ標準誤差の2倍の値をとると、真の値は約95%の確率でこの幅の中にあるといえるという性質があります。

誤差の大きさは、抽出の方法(無作為抽出の方法という意味)や調査対象とした集団の性質など、様々な要因により影響を受けますが、最も関連性を持つのが「標本数の大きさ」、すなわち、調査の客体としたサンプル数です。例えば、同一の調査、同一の項目においては、サンプル数が多い程標本誤差は小さくなり、逆に、サンプル数が少ない程標本誤差は大きくなります。

国が実施している調査では、見たい項目についての誤差の程度、標本誤差率を**5%程度**に おさめるようにする設計が行われているのが多くなっています。

標本誤差は下記の式で得られ、①比率算出の基数(n)、②回答の比率(p)によって誤差幅が異なります。

そこで、令和2年1月に行った瑞穂市の市民アンケートの母数集団(令和元年12月1日の有権者数)42,654、サンプル数2,000、有効回答者数768、回収率は38.4%であり、これを上式にあてはめての標本誤差について計算すると、

測定値(%)	信頼区間の 1/2 幅(%)
50	3.6
45 • 55	3.6
40-60	3.5
35-65	3.4
30-70	3.3
25•75	3.1
20-80	2.9
15•85	2.6
10-90	2.1
5•95	1.6

となり、すべての区間において誤差率は4%以内に納まっています。

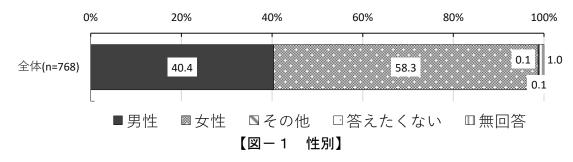
この表の使い方は、ある設問に対しての回答が 50%であったとすると、測定値 50%の 1/2 幅は 3.6%ですから、同じアンケートを対象者全数に行っても、46.4~53.6%の間で回答 が得られるということを示しています。

アンケート結果

1 あなたご自身のことについて

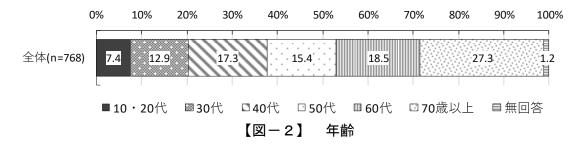
問 1 あなたの性別をお答えください。(1つに〇)

性別については、「男性」が 40.4%、「女性」が 58.3%となっており、「女性」のほうが高くなっています。



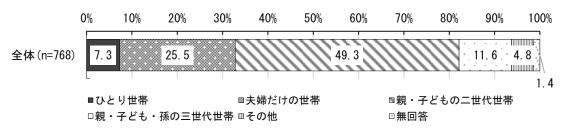
問2 現在のあなたの年齢をお答えください。(1つに〇)

年齢の内訳については、「70歳以上」が27.3%と最も高く、次いで、「60代」が18.5%、「40代」が17.3%、「50代」が15.4%などの順となっており、40代以下より60代以上の方が多くなっています。



問3 あなたを含め、同居されている家族構成をお答えください。(1つに○)

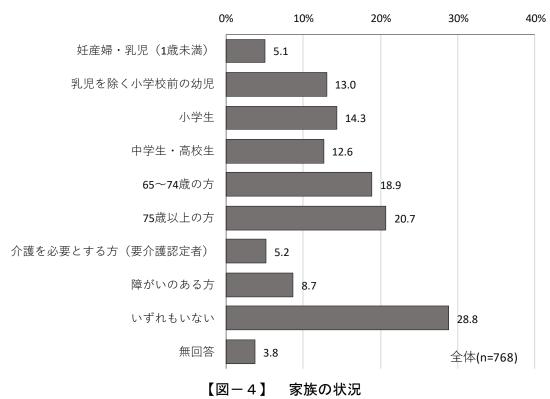
現在の家族構成については、「親・子どもの二世代世帯」が49.3%と最も高く、次いで、「夫婦だけの世帯」(25.5%)、「親・子ども・孫の三世代世帯」(11.6%)、「ひとり世帯」(7.3%)、「その他」(4.8%)の順となっています。



【図-3】 現在の家族構成

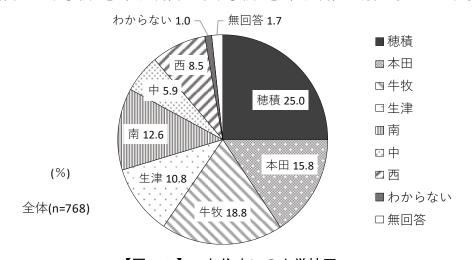
あなた自身、またはあなたが同居している家族のなかに、次のような方はいらっしゃいますか。(あてはまる番号すべてに〇)

家族の状況については、「いずれもいない」が 28.8%と最も高く、次いで、「75 歳以上の 方」がいるが 20.7%、「65~74 歳の方」がいるが 18.9%、「小学生」がいるが 14.3%、「乳児を除く小学校前の幼児」がいるが 13.0%、「中学生・高校生」がいるが 12.6%などの順と なっています。



問5 あなたのお住まいの小学校区をお答えください。(1つに〇)

お住まいの小学校区については、「穂積小学校区」が 25.0%と最も高く、次いで、「牛牧小学校区」(18.8%)、「本田小学校区」(15.8%)、「南小学校区」(12.6%)、「生津小学校区」(10.8%)、「西小学校区」(8.5%)、「中小学校区」(5.9%)の順となっています。



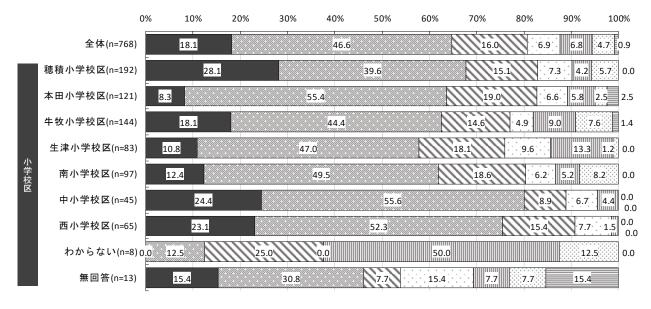
【図-5】 お住まいの小学校区

問6 あなたの瑞穂市での居住年数をお答えください。(1つに〇)

瑞穂市での居住年数については、「20年以上」が46.6%と最も高く、次いで、「生まれてからずっと」(18.1%)、「10年以上20年未満」(16.0%)、「5年以上10年未満」(6.9%)、「2年以上5年未満」(6.8%)、「1・2年未満」(4.7%)の順となっています。

・属性の分析

小学校区別でみると、全ての小学校区において「20年以上」が最も高く、「生まれてからずっと」と「20年以上」を合わせると「中小学校区」が80.0%、「西小学校区」が75.4%と高くなっており、「生津小学校区」は57.8%となっています。



■生まれてからずっと 図20年以上 □10年以上20年未満 □5年以上10年未満 □2年以上5年未満 □1・2年未満 目無回答

【図ー6】 瑞穂市での居住年数

2 地域とのかかわりについて

問7

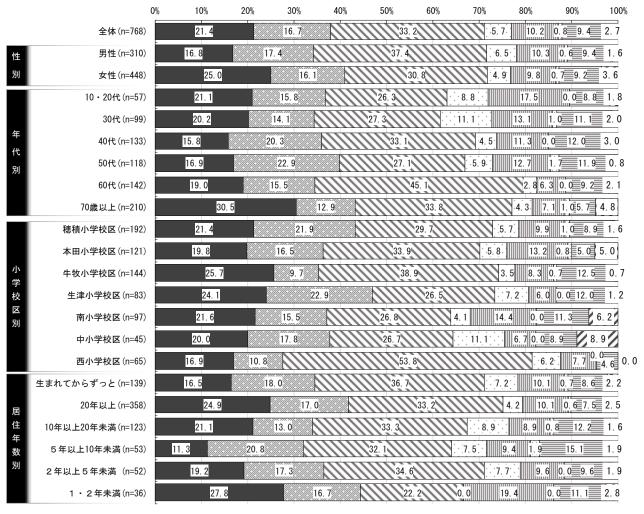
あなたにとって、市民が互いに助け合いの活動ができる「地域」とはどんな範囲だと思いますか。(1つにO)

互いに助け合いの活動ができる「地域」の範囲については、「自治会単位」が33.2%と最も高く、次いで、「となり近所」(21.4%)、「組(班)単位」(16.7%)、「市全域」(10.2%)、「わからない」(9.4%)、「小学校区単位」(5.7%)、「その他」(0.8%)の順となっています。

・属性の分析

性別でみると、男女間での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、10・20代では「市全域」(17.5%)が3番目に高くなっています。 小学校区別でみると、牛牧小学校区では「組(班)単位」が4番目と低くなっています。 居住年数別でみると、1・2年未満では、「となり近所」が27.8%と最も高くなっており、 5年以上10年未満では「となり近所」が4番目と低くなっています。



■となり近所 ◎組(班)単位 □自治会単位 □小学校区単位 □市全域 □その他 □わからない □無回答

【図-7】 互いに助け合いの活動ができる「地域」の範囲

問8 あなたのご近所との関係は次のどれに最も近いですか。(1つにO)

ご近所との関係については、「会えばあいさつをする程度の人がいる」が33.1%と最も高く、次いで、「立ち話をする程度の人がいる」(29.3%)、「困ったときに助け合う親しい人がいる」(15.8%)、「ほとんど近所とのつきあいはない」(11.5%)、「お互いに訪問し合う人がいる」(7.8%)の順となっています。

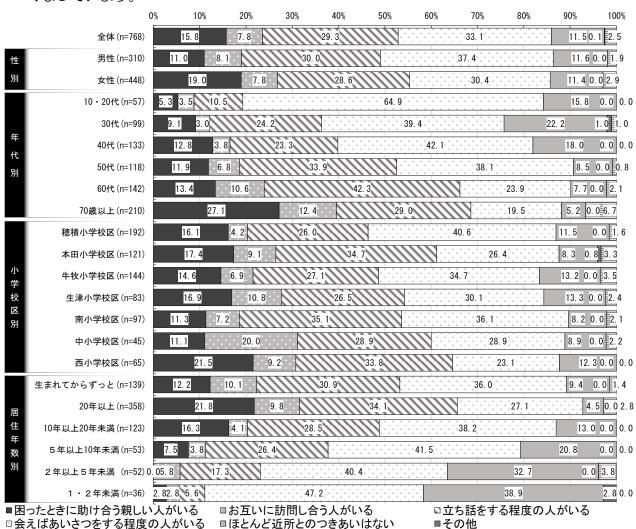
・ 属性の分析

■無回答

性別でみると、女性は、男性よりも「困ったときに助け合う親しい人がいる」(19.0%)の割合が高くなっています。

年代別でみると、概ね年齢層が高いほど「困ったときに助け合う親しい人がいる」の割合が 高くなっています。

小学校区別でみると、西小学校区では「困ったときに助け合う親しい人がいる」が 21.5% となっており、中小学校区(11.1%)と南小学校区(11.3%)の2倍ほどとなっています。 居住年数別でみると、20年以上では、「立ち話をする程度の人がいる」(34.1%)が最も高くなっています。



【図-8】 ご近所との関係

問9 お住まいの地域は暮らしやすいと思いますか。(1つに〇)

地域の暮らしやすさについては、「どちらかというと暮らしやすい」が 66.1%と最も高く、これに、「とても暮らしやすい」(18.9%)を合わせた "暮らしやすい"が、85.0%となっています。一方、「どちらかというと暮らしにくい」(10.4%)、「暮らしにくい」(3.8%)を合わせた "暮らしにくい"は 14.2%となっています。

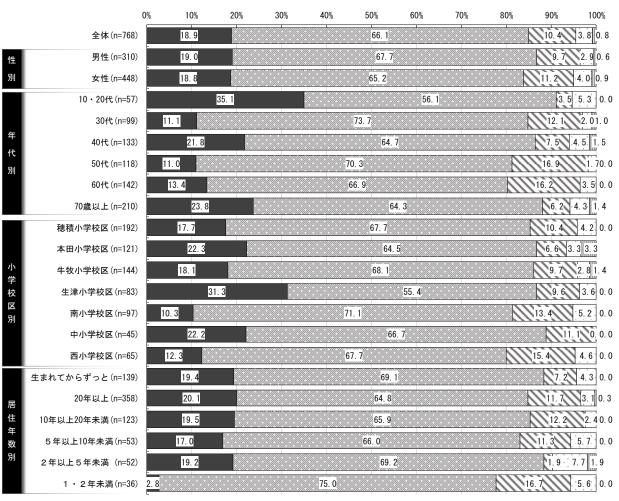
属性の分析

性別でみると、男女間での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、10・20代では、「とても暮らしやすい」が35.1%となっており、50代(11.0%)と30代(11.1%)の3倍ほどとなっていますが、"暮らしやすい"は全ての年代で8割以上となっています。

小学校区別でみると、生津小学校区では「とても暮らしやすい」が 31.3%となっており、 南小学校区(10.3%)と西小学校区(12.3%)の3倍ほどとなっていますが、"暮らしやすい" は全ての小学校区で8割以上となっています。

居住年数別でみると、1・2年未満では、「とても暮らしやすい」が 2.8%となっており、"暮らしやすい"も 77.8%と8割を下回っています。



■とても暮らしやすい □どちらかというと暮らしやすい □どちらかというと暮らしにくい □暮らしにくい □無回答

【図-9】 地域の暮らしやすさ

3 地域福祉について

問 10

あなたは、地域で生じている様々な福祉分野の生活課題(高齢者・障がいのある人の生活、子育て、健康づくりに関する問題など)に対し、地域住民が自主的にお互いに支え合い、助け合う関係が必要だと思いますか。(1つに〇)

地域住民が自主的にお互いに支え合い助け合う関係の必要性については、「必要だと思う」が44.5%と最も高く、これに、「どちらかというと必要だと思う」(42.2%)を合わせた"必要だと思う"が86.7%となっています。一方、「どちらかというと必要だとは思わない」(3.6%)、「必要だとは思わない」(2.1%)を合わせた"必要だとは思わない"は5.7%となっています。

属性の分析

■必要だと思う

□必要だとは思わない

性別でみると、女性は男性よりも「必要だと思う」(48.7%)の割合が高く"必要だと思う"(90.4%)も高くなっており、男性は"必要だとは思わない"が8.4%と高くなっています。 年代別でみると、10・20代では「必要だと思う」が59.6%、"必要だと思う"が91.2%、"必要だとは思わない"が1.8%となっていますが、30代では"必要だとは思わない"が11.2%、60代では8.4%となっています。

小学校区別でみると、中小学校区と西小学校区で"必要だとは思わない"が他の小学校区と 比較して高くなっています。

3. 6 2. 1 6. 8 0. 8 全体(n=768) 44. 5 42. 2 6. 1 2. 3 8. 7 1. 0 男性 (n=310) 38. 4 43.5 別 2.01.85.10.7 48. 7 41.7 女性 (n=448) 59. 6 0. 0 1. 8 7. 0 0. 0 31. 6 10·20代 (n=57) 6. 1 5. 1 4. 0 1. 0 30代 (n=99) 43. 4 40. 4 3. 1. 5 7. 5 0. 8 40代 (n=133) 36.8 50. 4 44. 1 45. 8 3. 41. 7 5. 1 0. 0 50代 (n=118) 4. 9 3. 5 6. 3 0. 0 60代 (n=142) 39. 4 45. 8 70歳以上(n=210) 49. 5 37. 1 3. 3 0. 0 8. 1 1. 9 41. 7 45. 3 3.60.5 8.9 0.0 穂積小学校区(n=192) 0.8 4.1 2.5 39. 7 本田小学校区(n=121) 52. 1 牛牧小学校区(n=144) 43. 1 45. 1 4. 9 2. 1 4. 2 0. 7 学 校 49. 4 34. 9 3. 6 2. 4 9. 6 0. 0 生津小学校区(n=83) × 0. 0 4. 1 7. 2 0. 0 44. 3 44. 3 南小学校区(n=97) 別 46. 7 8. 9 2. 2 4. 4 0. 0 中小学校区(n=45) 7. 7 3. 1 6. 2 3. 1 西小学校区(n=65) 44. 6 35. 4 3. 6 1. 4 8. 6 0. 7 生まれてからずっと(n=139) 43. 2 42.4 4. 2 1. 4 6. 4 0. 3 47. 2 40.5 20年以上(n=358) 居 住 38. 2 51. 2 2. 4 2. 4 4. 9 0. 8 10年以上20年未満(n=123) 年 45. 3 43. 4 1. 9 3. 8 5. 7 0. 0 5年以上10年未満(n=53) 数 別 2年以上5年未満 (n=52) 44. 2 36. 5 5.8 9. 6 0. 0 5. 6 2. 8 5. 6 0. 0 44. 4 1 · 2 年未満(n=36) 41. 7

居住年数別でみると、概ね居住年数が短いほど"必要だとは思わない"が高くなっています。

【図-10】 地域住民が自主的にお互いに支え合い助け合う関係の必要性

□わからない

∞どちらかというと必要だと思う

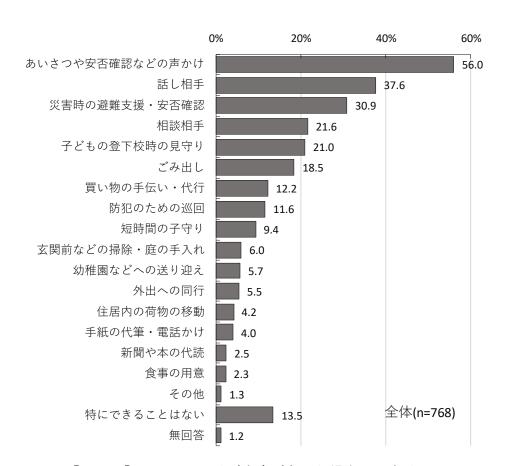
■どちらかというと必要だとは思わない

□無回答

あなたがお住まいの地域で、高齢者や障がいのある人、子ども、子育てなどで困っているご家庭があった場合、あなたにできることは何だと思いますか。

(あてはまる番号すべてに〇)

高齢者や障がいのある人、子ども、子育てなどで困っているご家庭があった場合、できることについては、「あいさつや安否確認などの声かけ」が56.0%と最も高く、次いで「話し相手」(37.6%)、「災害時の避難支援・安否確認」(30.9%)、「相談相手」(21.6%)、「子どもの登下校時の見守り」(21.0%)、「ごみ出し」(18.5%)、「買い物の手伝い・代行」(12.2%)などの順となっています。



【図-11】 困っているご家庭があった場合、できること

• 属性の分析

性別でみると、男女間で第2位と3位の順位が逆になっています。

年代別では、30代では「話し相手」が第2位、「子どもの登下校時の見守り」が第3位となっています。

小学校区別でみると、中小学校区では「災害時の避難支援・安否確認」が第2位、「ごみ出し」 が第3位となっています。

居住年数別でみると、5年以上 10 年未満では「災害時の避難支援・安否確認」が第2位、 「話し相手」が第3位となっています。

【表-1】 困っているご家庭があった場合、できること

		第1位	第2位	第3位
全位	<u>t</u>	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=768)		37.6%	否確認 30.9%
	男性	あいさつや安否確認な	災害時の避難支援・安	話し相手
性	(n=310)	どの声かけ 51.9%		27.7%
別	女性	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=448)		44.0%	否確認 27.9%
	10・20代	あいさつや安否確認な	災害時の避難支援・安	話し相手
	(n=57)		否確認 49.1%	47.4%
	30代	あいさつや安否確認な	話し相手	子どもの登下校時の見
	(n=99)	·	39.4%	守り 32.3% ゴレヤエ
年	40 代 (n=133)	あいさつや安否確認な どの声かけ 60.9%	災害時の避難支援・安 否確認 31.6%	話し相手 30.8%
代	50 代	あいさつや安否確認な	<u> 否確認 31.6%</u> 話し相手	災害時の避難支援・安
別	· ·	どの声かけ 68.6%	高日C1日子 39.0%	
	60 代	あいさつや安否確認な	災害時の避難支援・安	話し相手
	(n=142)		一 否確認 35.9%	33.8%
	70 歳以上	あいさつや安否確認な	話し相手	相談相手
		どの声かけ 43.3%	39.0%	22.4%
	穂積小学校区	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=192)	どの声かけ 55.7%	37.0%	
	本田小学校区	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=121)	どの声かけ 51.2%	36.4%	否確認 26.4%
小	牛牧小学校区	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
学	(n=144)	·	42.4%	否確認 41.7%
校	生津小学校区	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
区	(n=83)	·	32.5%	否確認 31.3%
別	南小学校区	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=97)	·	44.3%	否確認28.9%ごみ出し
	中小学校区 (n=45)	あいさつや安否確認な どの声かけ	災害時の避難支援・安 否確認 42.2%	31.1%
	西小学校区	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=65)		35.4%	
	生まれてからず		話し相手	災害時の避難支援・安
	っと (n=139)	どの声かけ 55.4%	33.8%	否確認 32.4%
	20 年以上	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=358)		38.0%	否確認 28.2%
居	10年以上 20年	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
住年	未満 (n=123)	どの声かけ 56.9%	45.5%	否確認 33.3%
数	5年以上 10 年	あいさつや安否確認な	災害時の避難支援・安	話し相手
別	未満 (n=53)		否確認 39.6%	37.7%
,,,,	2年以上5年未	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	満 (n=52)	どの声かけ 63.5%	36.5%	否確認 34.6%
	1・2年未満	あいさつや安否確認な	話し相手	災害時の避難支援・安
	(n=36)	どの声かけ 63.9%	30.6%	否確認

あなたは、地域での福祉活動を推進していくうえで、市民と行政との関係はどうあ るべきだとお考えですか。(1つに〇)

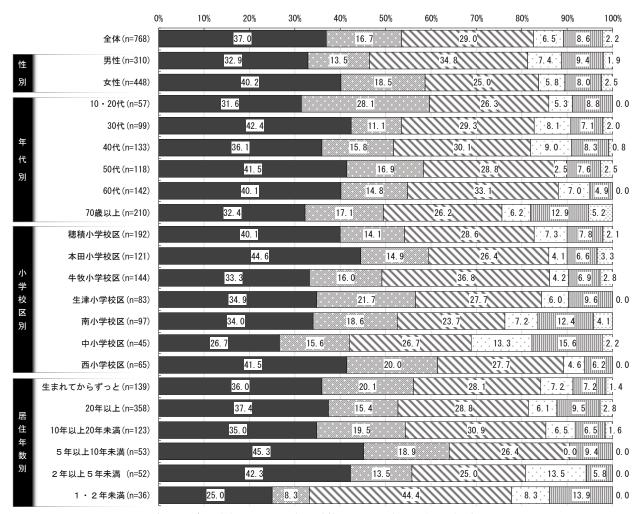
地域での福祉活動を推進していくうえで、市民と行政との関係はどうあるべきかについては、 「福祉サービスの充実のために、市民も行政も協力し合い、協働してともに取り組むべきであ る」 が 37.0%と最も高く、次いで 「行政が担当すべきだが、手の届かない部分は市民が協力す べきである」(29.0%)、「家庭や地域をはじめ市民同士で助け合い、手の届かない部分は行政 が援助すべきである」(16.7%)、「福祉サービスは行政が担当すべきで、市民はあまり協力す ることはない」(6.5%) の順となっています。なお、「わからない」は8.6%でした。

・属性の分析

性別でみると、男性では「行政が担当すべきだが、手の届かない部分は市民が協力すべきで ある」(34.8%) が最も高くなっています。

年代別・小学校区別で大きな違いはみられませんでした。

居住年数別でみると、1・2年未満では「行政が担当すべきだが、手の届かない部分は市民が 協力すべきである」(44.4%) が最も高くなっています。



[■]福祉サービスの充実のために、市民も行政も協力し合ってともに取り組むべきである ■家庭や地域をはじめ市民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が支援すべきである ■行政が担当すべきだが、手の届かない部分は市民が協力すべきである

福祉活動を推進していくうえでの市民と行政との関係 【図-12】

旦当すべきだが、手の届かない部分は市民が協力すべきである - ビスは行政が担当すべきで、市民はあまり協力することはない □福祉サービ □わからない □無回答

4 ボランティア活動について

問 13 あなたは、ボランティア活動を行ったことがありますか。(1つにO)

ボランティア活動への参加状況については、「活動したことがない」(60.4%)が最も高く、次いで、「以前活動したことがある」(31.3%)、「現在活動している」(7.4%)の順となっています。

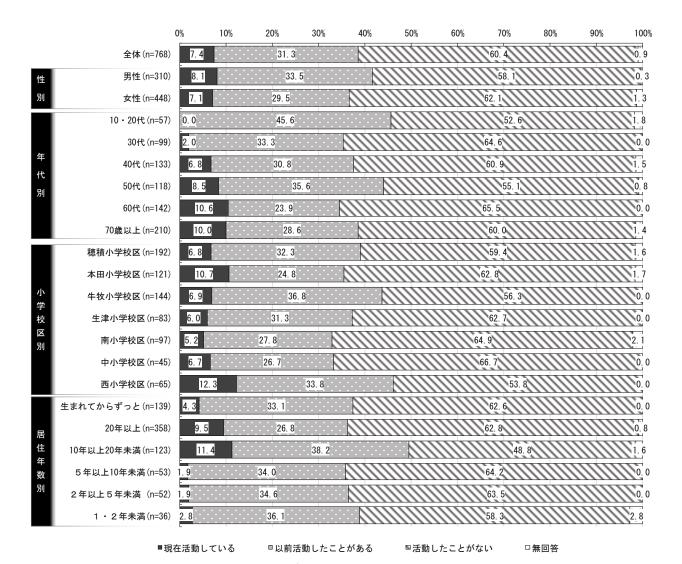
・ 属性の分析

性別でみると、男女間での大きな違いはみられませんでした。

年代別では、概ね年齢層が高いほど「現在活動している」の割合が高くなっています。

小学校区別でみると、西小学校区と本田小学校区では「現在活動している」がそれぞれ 12.3%、10.7%と1割を超えています。

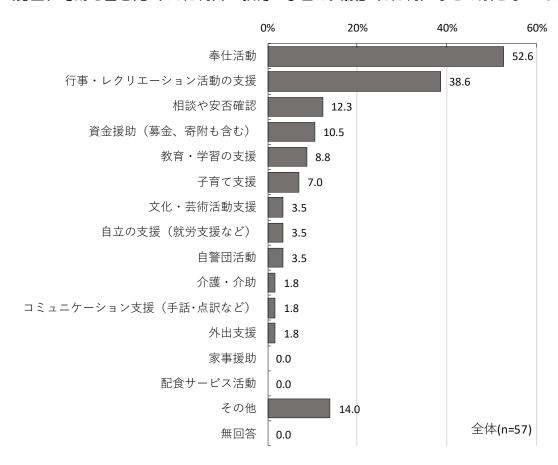
居住年数別でみると、10年以上20年未満では「現在活動している」も「以前活動したことがある」も他の居住年数に比べ高くなっています。



【図-13】 ボランティア活動への参加状況

問 13-1 問 13 で「1. 現在活動している」と回答した方だけお答えください。 あなたが現在取り組んでいるボランティア活動の具体的な内容は次のどれですか。 (あてはまる番号すべてにO)

現在活動している方の具体的な内容については、「奉仕活動」が52.6%と最も高く、次いで、「行事・レクリエーション活動の支援」(38.6%)、「相談や安否確認」(12.3%)、「資金援助(募金、寄附も含む)」(10.5%)、「教育・学習の支援」(8.8%)などの順となっています。



【図-14】 現在活動している方の具体的な内容

問 14 あなたは、今後、ボランティア活動に参加する気持ちがありますか。(1つに〇)

ボランティア活動への参加の意向については、「ボランティア活動への興味はあるが、参加 する機会がない」が 38.7%と最も高く、次いで「ボランティア活動への興味はあるが、参加 しようとは思わない」(27.5%)、「ボランティア活動に参加するつもりはない」(18.2%)、「何 らかのボランティア活動に参加したい(あるいは今後とも活動を続けたい)」(12.6%)の順と なっています。

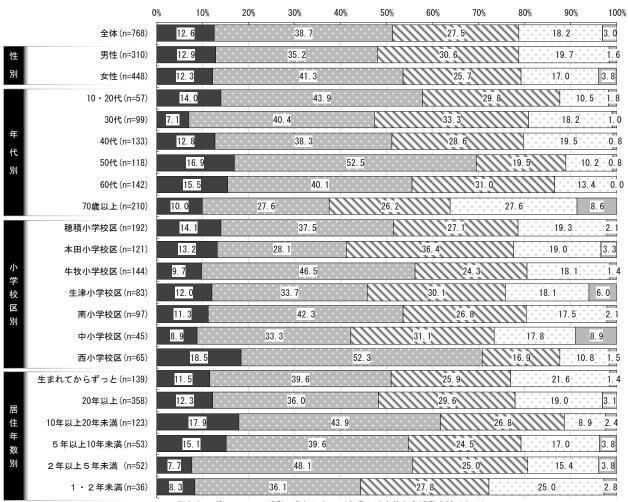
・属性の分析

性別でみると、男女間での大きな違いはみられませんでした。

年代別では、70 歳以上で、「ボランティア活動に参加するつもりはない」の割合が他の年代 と比較して高くなっています。

小学校区別でみると、西小学校区では「ボランティア活動への興味はあるが、参加する機会 がない」が他の小学校区と比較して高くなっています。

居住年数別でみると、10年以上20年未満では「何らかのボランティア活動に参加したい (あるいは今後とも活動を続けたい)」が高くなっています。



■何らかのボランティア活動に参加したい(あるいは今後とも活動を続けたい) □ボランティア活動への興味はあるが、参加する機会がない □ボランティア活動への興味はあるが、参加しようとは思わない □ボランティア活動に参加するつもりはない

【図-15】 ボランティア活動への参加の意向

[□]無回答

あなたは、ボランティア活動の輪を広げるために、今後どのようなことが特に重要だと考えますか。(1つにO)

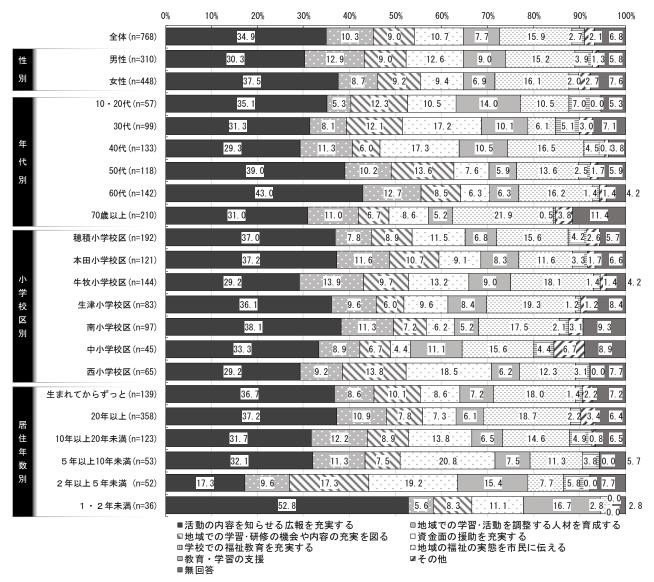
ボランティア活動の輪を広げるために、今後どのようなことが特に重要かについては、「活動の内容を知らせる広報を充実する」が34.9%と最も高く、次いで、「地域の福祉の実態を市民に伝える」(15.9%)、「資金面の援助を充実する」(10.7%)、「地域での学習・活動を調整する人材を育成する」(10.3%)、「地域での学習・研修の機会や内容の充実を図る」(9.0%)などの順となっています。

属性の分析

性別・年代別・小学校区別で大きな違いはみられませんでした。

居住年数別でみると、2年以上5年未満では「資金面の援助を充実する」が最も高くなっており、

1・2年未満では、他の年代と比較して「活動の内容を知らせる広報を充実する」の割合が高くなっています。



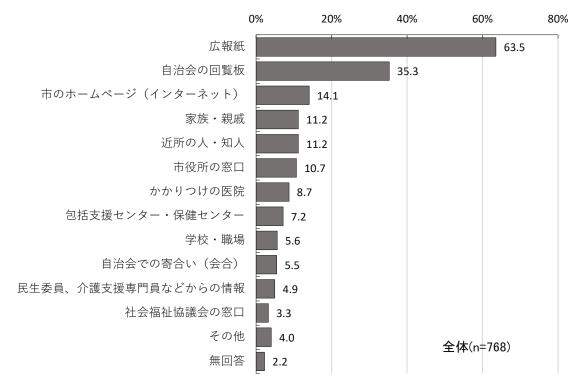
【図-16】 ボランティア活動の輪を広げるために、今後どのようなことが特に重要か

5 市の保健・福祉に関する情報の入手について

問 16

あなたは、保育、健康診査、高齢者や障がい者への福祉サービスなどの情報をどのように入手していますか。(あてはまる番号すべてに〇)

保育、健康診査、高齢者や障がい者への福祉サービスなどの情報の入手先については、「広報紙」が63.5%と最も高く、次いで、「自治会の回覧板」(35.3%)、「市のホームページ(インターネット)」(14.1%)、「家族・親戚」と「近所の人・知人」(同率で11.2%) などの順となっています。



・ 属性の分析

性別・小学校区別・居住年数別による大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、概ね年齢層が高いほど「広報紙」、「自治会での寄合い(会合)」の割合が高く、概ね年齢層が低いほど「市のホームページ(インターネット)」、「家族・親戚」の割合が高くなっています。

【表-2】 保育、健康診査、高齢者や障がい者への福祉サービスなどの情報の入手先

	1衣一	۷ ا	休月、	N-14/1	沙旦、	101211	1人 左/	• •	Ψ, ιμ	11111		よとの	113 110 -		
(単位	ታ:%)	市役所の窓口	広報紙	(インターネット)	社会福祉協議会の窓口	・保健センター包括支援センター	門員などからの情報民生委員、介護支援専	自治会の回覧板	自治会での寄合い (会合)	家族•親戚	近所の人・知人	学校・職場	かかりつけの医院	その他	無回答
全	体	10.7	63.5	14.1	3.3	7.2	4.9	35.3	5.5	11.2	11.2	5.6	8.7	4.0	2.2
性	男性	11.0	64.5	15.2	3.2	3.9	3.5	37.4	7.4	14.2	10.3	5.2	9.0	2.9	1.6
性 別	女性	10.7	63.4	13.4	3.3	9.6	6.0	33.7	4.0	8.9	12.1	6.0	8.5	4.7	2.7
	10代	12.3	59.6	21.1	0.0	5.3	1.8	14.0	1.8	29.8	3.5	22.8	0.0	3.5	1.8
	30代	16.2	52.5	31.3	1.0	12.1	2.0	21.2	0.0	13.1	11.1	8.1	7.1	4.0	0.0
年代別	40 代	9.0	68.4	17.3	1.5	1.5	0.8	26.3	2.3	12.8	8.3	6.8	3.0	8.3	3.0
別	50 代	11.9	68.6	15.3	3.4	7.6	7.6	41.5	4.2	5.1	11.9	5.9	5.1	4.2	0.8
	60 代	5.6	78.9	9.2	5.6	5.6	4.2	43.7	7.0	4.9	11.3	4.2	9.9	3.5	1.4
	70 歳 以上	11.9	54.3	4.3	4.8	10.0	8.6	43.3	10.5	11.0	14.8	0.0	17.1	1.4	4.3
	穂積	13.0	58.9	16.1	5.7	9.9	3.1	35.4	4.7	11.5	12.0	6.8	10.4	5.2	2.6
	本田	14.9	73.6	11.6	5.8	9.9	6.6	33.1	5.0	12.4	6.6	3.3	5.8	0.0	1.7
小 "	牛牧	9.7	63.9	15.3	0.7	4.9	6.9	35.4	3.5	7.6	12.5	4.9	11.8	5.6	0.7
小学校区別	生津	6.0	66.3	7.2	1.2	4.8	4.8	39.8	2.4	15.7	13.3	7.2	1.2	4.8	2.4
別	南	9.3	58.8	15.5	0.0	7.2	4.1	32.0	10.3	8.2	10.3	4.1	9.3	3.1	2.1
	中	6.7	66.7	20.0	4.4	8.9	4.4	51.1	8.9	15.6	17.8	6.7	11.1	0.0	2.2
	西	10.8	72.3	12.3	4.6	1.5	6.2	29.2	7.7	12.3	9.2	6.2	12.3	1.5	4.6
	生まれ てから ずっと	10.8	60.4	14.4	5.0	9.4	5.8	37.4	5.8	22.3	8.6	7.9	9.4	1.4	0.7
	20 年 以上	8.9	68.7	9.8	3.6	7.3	5.6	42.5	7.5	8.1	13.7	2.5	11.5	1.7	2.2
居住年数別	10年 以上 20年 未満	8.1	64.2	13.0	2.4	4.1	4.1	34.1	5.7	9.8	12.2	10.6	2.4	5.7	3.3
	5年以 上 10 年未満	20.8	56.6	26.4	1.9	5.7	3.8	18.9	0.0	7.5	5.7	7.5	7.5	9.4	1.9
	2年以 上5年 未満	13.5	59.6	17.3	1.9	5.8	0.0	23.1	0.0	13.5	7.7	5.8	1.9	13.5	0.0
	1・2年 未満	16.7	41.7	30.6	0.0	8.3	5.6	8.3	0.0	8.3	8.3	8.3	11.1	8.3	2.8

6 相談について

問 17

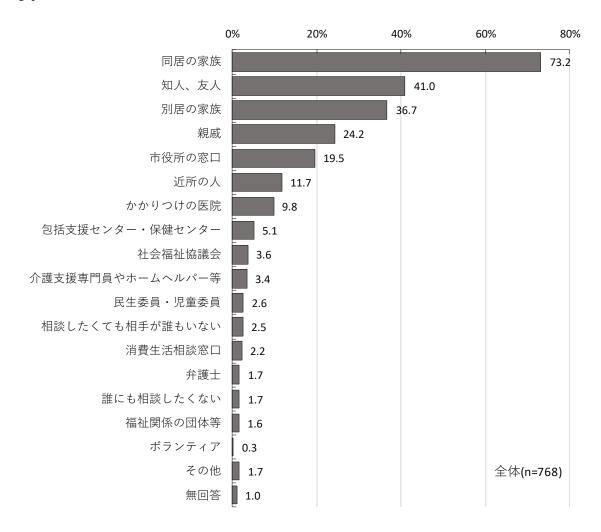
あなたは暮らしの問題で困ったときに、誰に相談しますか。

(あてはまる番号すべてに〇)

暮らしの問題で困ったときの相談相手については、「同居の家族」が73.2%と最も高く、次いで「知人、友人」(41.0%)、「別居の家族」(36.7%)、「親戚」(24.2%)、「市役所の窓口」(19.5%)などの順となっています。

なお、「相談したくても相手が誰もいない」は2.5%となっています。

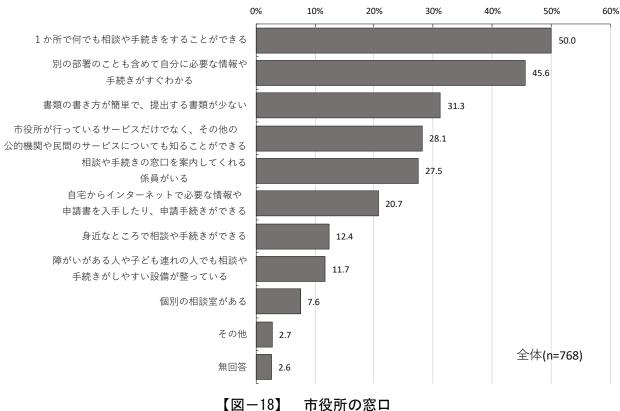
ちなみに、その内訳を年代別にみると「10・20代」が1人、「40代」が5人、「50代」が3人、「60代」が6人、「70歳以上」が4人であり、家族構成別では、「ひとり世帯」が2人、「夫婦だけの世帯」が4人、「親・子どもの二世代世帯」が8人、「子ども・孫の三世代世帯」が2人、「その他」が3人となっており、特に特徴的な差異は読み取れない結果となっています。



【図-17】 暮らしの問題で困ったときの相談相手

あなたは、市役所に相談や手続きに行く場合、どのような窓口だと良いと思いますか。(3つまでO)

市役所の窓口については、「1か所で何でも相談や手続きをすることができる」が50.0%と最も高く、次いで「別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる」(45.6%)、「書類の書き方が簡単で、提出する書類が少ない」(31.3%)、「市役所が行っているサービスだけでなく、その他の公的機関や民間のサービスについても知ることができる」(28.1%)、「相談や手続きの窓口を案内してくれる係員がいる」(27.5%)などの順となっています。



・ 属性の分析

性別・小学校区別での大きな違いはみられませんでした。

年代別では、30 代から 60 代では、「別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる」が最も高くなっています。

居住年数別でみると、10年以上20年未満では「別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる」(52.8%)が最も高くなっています。

【表一3】市役所の窓口

(単位	ቷ : %)	きがすぐわかる 自分に必要な情報や手続 別の部署のことも含めて	市役所が行っているサービスだけでなく、その他のどスだけでなく、その他のどの機関や民間のサービスについても知ることができる。	続きをすることができる1か所で何でも相談や手	内してくれる係員がいる相談や手続きの窓口を案	提出する書類が少ない書類の書き方が簡単で、	続きができる	できる できる できる	個別の相談室がある	が整っている 手続きがしやすい設備 手続きがしやすい設備	その他	無回答
全	体	45.6	28.1	50.0	27.5	31.3	12.4	20.7	7.6	11.7	2.7	2.6
性 別	男性	46.1	26.1	51.6	25.8	32.9	12.9	22.6	7.4	9.0	2.3	1.9
別	女性	45.1	29.2	49.1	29.0	30.8	12.3	19.6	7.8	13.6	2.9	2.9
	10代	43.9	10.5	50.9	26.3	40.4	12.3	49.1	8.8	26.3	3.5	0.0
	30代	47.5	29.3	43.4	17.2	37.4	6.1	29.3	5.1	23.2	3.0	0.0
年代別	40 代	48.1	27.8	47.4	28.6	30.8	6.8	30.8	4.5	11.3	5.3	1.5
別	50 代	56.8	33.9	50.0	25.4	29.7	9.3	25.4	7.6	7.6	3.4	0.8
	60代	50.0	34.5	49.3	31.0	27.5	19.0	12.0	9.9	12.0	2.1	1.4
	70 歳 以上	33.8	24.3	55.7	31.9	31.0	16.7	5.7	9.0	4.8	0.5	6.7
<u></u>	穂積	46.9	27.1	49.5	27.6	29.7	13.0	19.3	6.8	15.1	1.6	2.6
	本田	42.1	31.4	50.4	26.4	36.4	12.4	19.0	7.4	10.7	1.7	8.0
	牛牧	47.9	27.1	47.9	25.7	36.1	12.5	24.3	10.4	14.6	2.8	1.4
小学校区別	生津	48.2	30.1	51.8	31.3	28.9	13.3	22.9	7.2	8.4	2.4	2.4
別	南	49.5	22.7	49.5	25.8	24.7	13.4	21.6	7.2	9.3	5.2	3.1
	中	40.0	24.4	46.7	31.1	28.9	4.4	20.0	4.4	11.1	4.4	6.7
	西	38.5	40.0	56.9	35.4	32.3	15.4	16.9	7.7	6.2	1.5	3.1
	生まれ てから ずっと		23.7	54.7	22.3	31.7	16.5	16.5	6.5	15.8	1.4	2.9
	20 年 以上	42.7	30.7	49.7	28.8	30.7	14.2	14.8	8.9	7.5	2.8	3.6
居住年数別	10年 以上 20年 未満	52.8	26.0	41.5	35.0	29.3	8.9	34.1	7.3	10.6	4.9	0.8
	5年以 上 10 年未満	45.3	39.6	50.9	24.5	32.1	1.9	24.5	7.5	18.9	1.9	3.8
	2年以 上5年 未満	50.0	21.2	53.8	19.2	38.5	11.5	25.0	1.9	21.2	3.8	0.0
	1·2年 未満	41.7	22.2	52.8	25.0	30.6	5.6	38.9	5.6	19.4	0.0	0.0

7 人権・権利擁護について

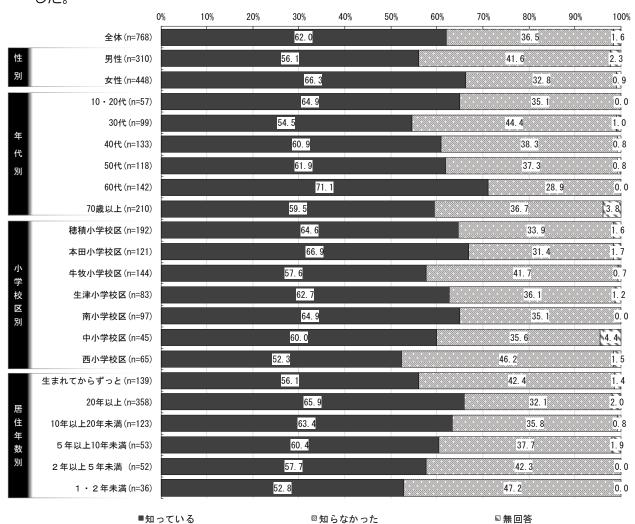
問 19

あなたは、児童や高齢者への虐待、家庭内暴力を知った場合に、市など公的機関に 速やかに通報する義務が市民にあることをご存知でしたか。(1つに〇)

児童や高齢者への虐待、家庭内暴力の通報義務については、「知っている」が 62.0%で、「知らなかった」が 36.5%で6割以上のかたが知っていました。

・ 属性の分析

性別でみると、女性の方が「知っている」の割合が高くなっています。 年代別でみると、30代(54.5%)と70歳以上(59.5%)が6割以下でした。 小学校区別でみると、牛牧小学校区(57.6%)と西小学校区(52.3%)が6割以下でした。 居住年数別でみると、1・2年未満と2年以上5年未満と生まれてからずっとが6割以下でした。 した。



【図-19】 児童や高齢者への虐待、家庭内暴力の通報義務

あなたは、日常生活自立支援事業(※解説参照)について、どの程度ご存知ですか。 (1つに〇)

日常生活自立支援事業については、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 52.6% と最も高く、次いで「(アンケートの) 用語解説で初めて知った」(37.5%)、「制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む)」(8.3%) の順でした。

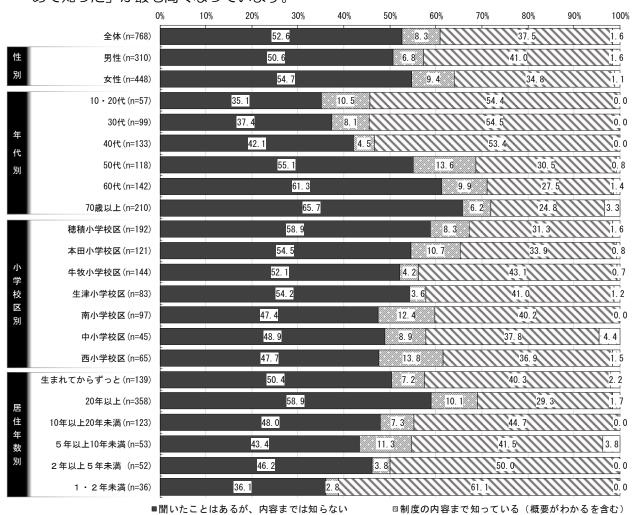
属性の分析

性別でみると、女性の方が「制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む)」の割合が高くなっています。

年代別でみると、40代以下では「(アンケートの) 用語解説で初めて知った」が最も高くなっています。

小学校区別でみると、小学校区による大きな違いはみられませんでした。

居住年数別でみると、1・2年未満と2年以上5年未満では「(アンケートの) 用語解説で初めて知った」が最も高くなっています。



【図-20】 日常生活自立支援事業について

□無回答

■下記の用語解説で初めて知った

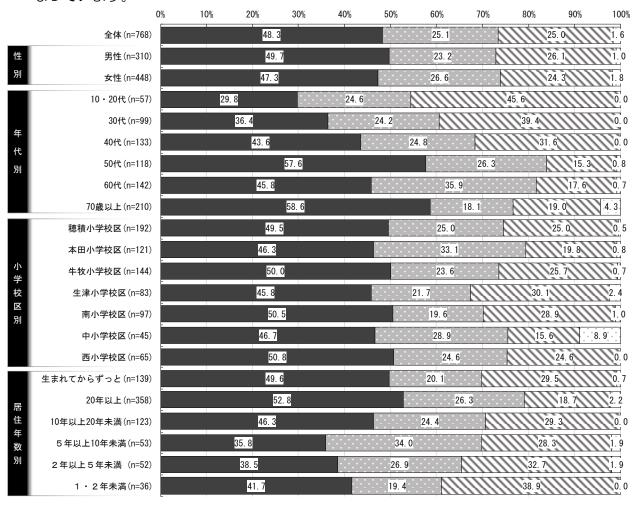
問21 あなたは、成年後見制度について、どの程度ご存知ですか。

成年後見制度については、「聞いたことはあるが、内容までは知らない」が 48.3%と最も高く、次いで「制度の内容まで知っている (概要がわかるを含む)」(25.1%)、「(アンケートの) 用語解説で初めて知った」(25.0%) の順でした。

・ 属性の分析

性別・小学校区別・居住年数別での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、30 代以下では、「(アンケートの) 用語解説で初めて知った」が最も高くなっています。



■聞いたことはあるが、内容までは知らない □制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む) □下記の用語解説で初めて知った □無回答

【図-21】 成年後見制度について

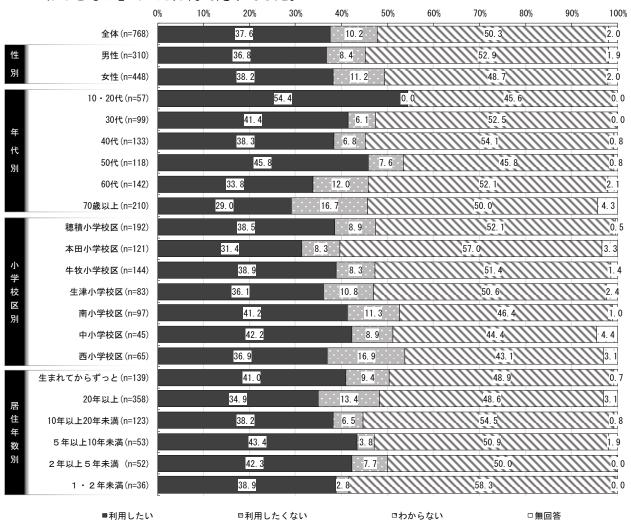
あなた自身が認知症などで判断が十分にできなくなった時に、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(1つにO)

「成年後見制度」の利用については、「わからない」が 50.3%と最も高く、次いで「利用したい」(37.6%)、「利用したくない」(10.2%) の順でした。

・ 属性の分析

性別・小学校区別・居住年数別での大きな違いはみられませんでした。

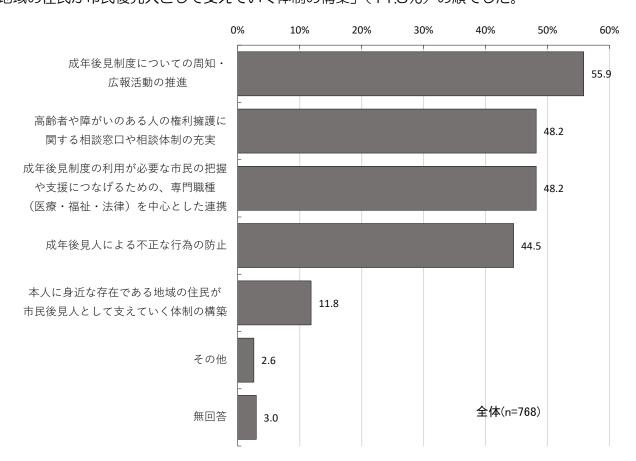
年代別でみると、10・20代では「利用したい」が最も高く、50代では「利用したい」と「わからない」が 45.8%で同率でした。



【図-22】 「成年後見制度」の利用

今後、高齢化が進む中で、成年後見制度の利用促進・充実を図っていくためには、 どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで〇)

成年後見制度の利用促進・充実を図っていくために必要なことについては、「成年後見制度についての周知・広報活動の推進」が55.9%と最も高く、次いで「高齢者や障がいのある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実」と「成年後見制度の利用が必要な市民の把握や支援につなげるための、専門職種(医療・福祉・法律)を中心とした連携」(同率で48.2%)、「成年後見人による金銭の横領などの不正防止の徹底」(44.5%)、「本人に身近な存在である地域の住民が市民後見人として支えていく体制の構築」(11.8%)の順でした。



・属性の分析

性別でみると、女性では「成年後見制度の利用が必要な市民の把握や支援につなげるための、 専門職種(医療・福祉・法律)を中心とした連携」が男性よりも高く、「成年後見制度について の周知・広報活動の推進」が男性よりも低くなっています。

年代別でみると、70歳以上では「成年後見人による不正な行為の防止」が最も高くなっています。

小学校区別でみると、生津小学校区では「成年後見制度の利用が必要な市民の把握や支援につなげるための、専門職種(医療・福祉・法律)を中心とした連携」が最も高くなっています。

居住年数別でみると、5年以上 10年未満と 10年以上 20年未満では「成年後見制度の利用が必要な市民の把握や支援につなげるための、専門職種(医療・福祉・法律)を中心とした連携」が最も高くなっています。

【表-4】 成年後見制度の利用促進・充実を図っていくために必要なこと

	(単位	ī:%)	周知・広報活動の推進成年後見制度についての	充実 相談窓口や相談体制の 人の権利擁護に関する 高齢者や障がいのある	律)を中心とした連携門職種(医療・福祉・法援につなげるための、専援につなげるための、専成年後見制度の利用が成年後見制度の利用が	な行為の防止成年後見人による不正	制の構築見人として支えていく体見人として支えていく体をが市民後本人に身近な存在であ	その他	無回答
全	体	(n=768)	55.9	48.2	48.2	44.5	11.8	2.6	3.0
性別	男性	(n=310)	61.9	46.8	43.2	42.6	11.9	1.6	1.9
別	女性	(n=448)	51.8	49.8	52.0	46.0	11.6	3.1	3.6
	10・20 代	(n=57)	70.2	45.6	50.9	40.4	19.3	0.0	0.0
	30代	(n=99)	57.6	49.5	50.5	33.3	14.1	4.0	2.0
年代別	40 代	(n=133)	57.9	46.6	52.6	46.6	12.0	3.0	1.5
別	50 代	(n=118)	59.3	49.2	50.0	48.3	10.2	5.1	2.5
	60 代	(n=142)	59.2	53.5	48.6	45.1	6.3	0.7	0.7
	70 歳以上	(n=210)	45.7	46.2	42.9	46.7	13.3	1.9	7.1
	穂積小学校	区(n=192)	57.3	50.0	45.3	46.9	13.5	2.1	3.6
	本田小学校	区(n=121)	52.1	49.6	47.1	48.8	9.1	2.5	2.5
小学	牛牧小学校	区(n=144)	60.4	47.9	50.7	43.8	14.6	2.8	1.4
小学校区別	生津小学校	区(n=83)	48.2	51.8	57.8	47.0	9.6	2.4	2.4
別	南小学校区	(n=97)	55.7	51.5	41.2	42.3	11.3	6.2	2.1
	中小学校区	(n=45)	62.2	42.2	53.3	24.4	6.7	0.0	8.9
	西小学校区	(n=65)	56.9	44.6	50.8	46.2	15.4	0.0	3.1
	生まれてか	らずっと (n=139)	60.4	45.3	39.6	42.4	18.7	1.4	2.9
	20 年以上	(n=358)	53.9	48.6	46.9	46.4	11.2	2.5	3.6
居住年数別	10 年以上 2	(n=123)	56.9	49.6	57.7	47.2	8.9	3.3	0.8
数 別	5年以上 10	(n=53)	49.1	56.6	58.5	39.6	11.3	1.9	3.8
	2年以上5年	(n=52)	59.6	48.1	51.9	40.4	7.7	3.8	0.0
	1・2年未満	(n=36)	63.9	41.7	44.4	41.7	11.1	5.6	2.8

8 いのちの支え合いについて

問 24 あなたは、「孤立死」について知っていますか。(1つにO)

「孤立死」については、「聞いたことがあり、自分のこととして考えたことがある」が 49.9% と最も高く、次いで、「聞いたことがあるが、自分には関係ない(よくわからないを含む)」 (47.4%)、「(アンケートの) 用語解説で初めて知った」(1.6%) の順でした。

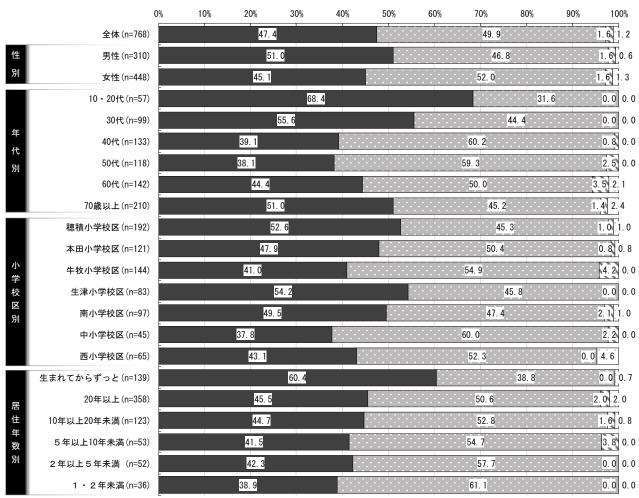
・ 属性の分析

性別でみると、男性では「聞いたことがあるが、自分には関係ない(よくわからないを含む)」 が最も高くなっています。

年代別でみると、30代以下と70歳以上では「聞いたことがあるが、自分には関係ない(よくわからないを含む)」が最も高くなっています。

小学校区別でみると、穂積小学校区と生津小学校区と南小学校区では「聞いたことがあるが、 自分には関係ない(よくわからないを含む)」が最も高くなっています。

居住年数別でみると、生まれてからずっとでは、「聞いたことがあるが、自分には関係ない (よくわからないを含む)」が最も高くなっています。



■聞いたことがあるが、自分には関係ない(よくわからないを含む) ◎聞いたことがあり、自分のこととして考えたことがある ◎記の用語解説で初めて知った □無回答

【図-23】 「孤立死」について

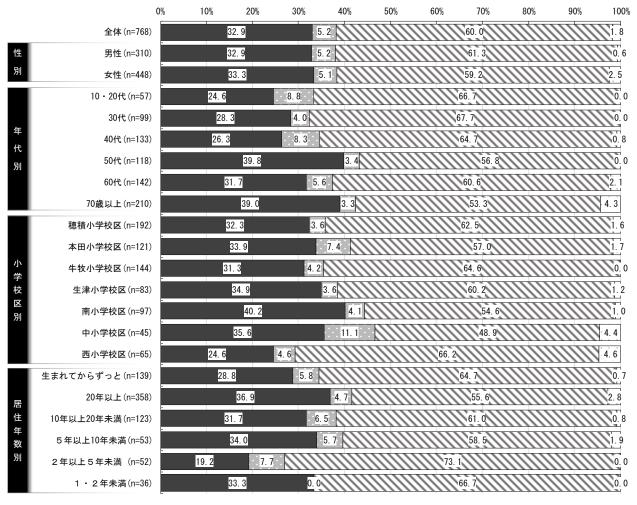
問 25 あなたは、「自殺対策基本法」という法律を知っていますか。(1つに○)

「自殺対策基本法」については、「(アンケートの) 用語解説で初めて知った」が 60.0%と 最も高く、次いで「聞いたことはあるが、内容までは知らない」(32.9%)、「制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む)」(5.2%) の順でした。

・ 属性の分析

性別・小学校区別・居住年数別での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、概ね年齢層が高いほど「聞いたことはあるが、内容までは知らない」の割合が高くなっています。



■聞いたことはあるが、内容までは知らない □制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む) □下記の用語解説で初めて知った □無回答

【図-24】 「自殺対策基本法」について

問 26 あなたは、自殺対策を自分自身に関わる問題だとおもいますか。(1つに○)

自殺対策を自分自身に関わる問題だとおもうかについては、「そう思わない」が31.6%と最も高く、これに「あまりそう思わない」(25.3%)を合わせた"そう思わない"は56.9%となっています。一方、「そう思う」(8.1%)と「どちらかというとそう思う」(13.2%)を合わせた"そう思う"が21.3%となっています。

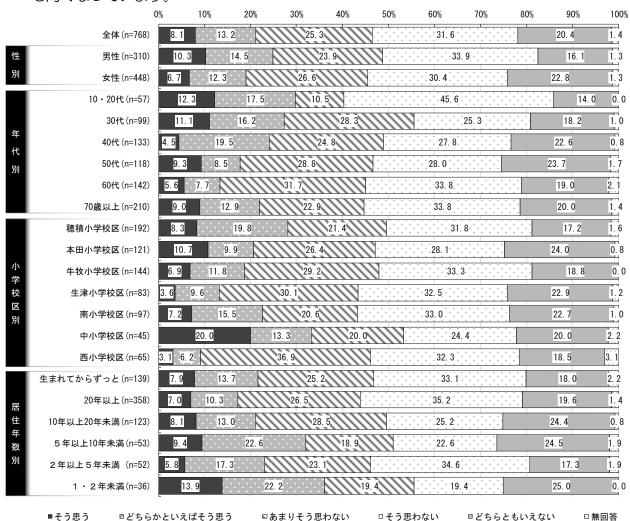
・属性の分析

性別でみると、男性は"そう思う"が女性より高くなっています

年代別でみると、10・20代では"そう思う"が3割程度で、概ね年齢層が高いほどその割合が低くなる傾向となっています。

小学校区別での大きな違いはみられませんでした。

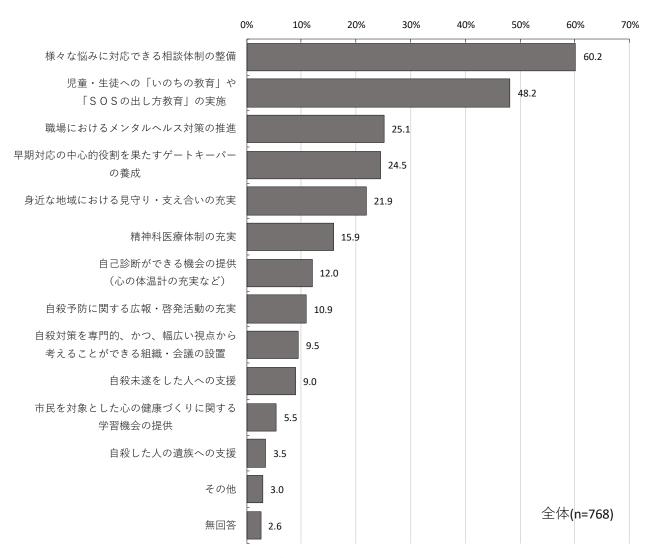
居住年数別でみると、5年以上10年未満と1・2年未満では「どちらともいえない」が最も高くなっています。



【図-25】 自殺対策を自分自身に関わる問題だとおもうか

問 27 あなたは、自殺を減少させるために重要だと思うことは何ですか。(3つまでO)

自殺を減少させるために重要だと思うことについては、「様々な悩みに対応できる相談体制の整備」が60.2%と最も高く、次いで「児童・生徒への「いのちの教育」や「SOSの出し方教育」の実施」(48.2%)、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(25.1%)、「早期対応の中心的役割を果たすゲートキーパーの養成」(24.5%)、「身近な地域における見守り・支え合いの充実」(21.9%)、「精神科医療体制の充実」(15.9%)、「自己診断ができる機会の提供(心の体温計の充実など)」(12.0%)などの順でした。



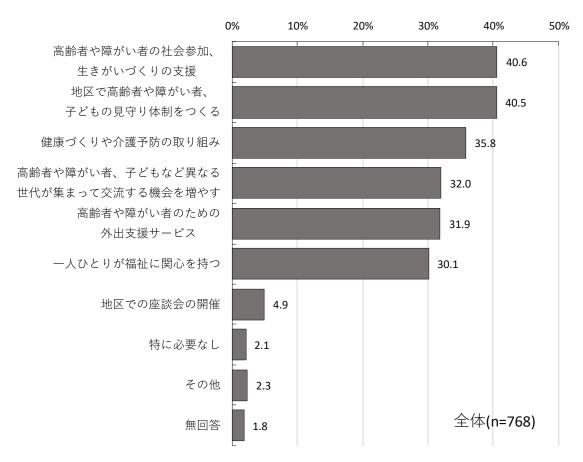
【図-26】 自殺を減少させるために重要だと思うこと

問 28

地域の中で安心して暮らすためにどんなことが必要なことと思いますか。

(3つまで0)

地域の中で安心して暮らすために必要なことについては、「高齢者や障がい者の社会参加、生きがいづくりの支援」が40.6%と最も高く、次いで、「地区で高齢者や障がい者、子どもの見守り体制をつくる」(40.5%)、「健康づくりや介護予防の取り組み」(35.8%)、「高齢者や障がい者、子どもなど異なる世代が集まって交流する機会を増やす」(32.0%)、「高齢者や障がい者のための外出支援サービス」(31.9%)、「一人ひとりが福祉に関心を持つ」(30.1%)、「地区での座談会の開催」(4.9%)「特に必要なし」(2.1%)の順でした。



【図-27】 地域の中で安心して暮らすために必要なこと

・属性の分析

性別でみると、女性では「地区で高齢者や障がい者、子どもの見守り体制をつくる」(42.6%)が第1位になっています。

年代別でみると、10・20代と30代では「地区で高齢者や障がい者、子どもの見守り体制をつくる」が第1位になっており、70歳以上では「健康づくりや介護予防の取り組み」が第1位になっています。

小学校区別でみると、南小学校区と中小学校区では「地区で高齢者や障がい者、子どもの見守り体制をつくる」が第1位になっており、本田小学校区では「高齢者や障がい者のための外出支援サービス」が「高齢者や障がい者の社会参加、生きがいづくりの支援」と同率で第1位となっています。

居住年数別でみると、5年以上10年未満と2年以上5年未満と1・2年未満では「地区で 高齢者や障がい者、子どもの見守り体制をつくる」が第1位になっており、生まれてからずっ とでは「地区で高齢者や障がい者、子どもの見守り体制をつくる」が「高齢者や障がい者の社 会参加、生きがいづくりの支援」と同率で第1位となっています。

【表-5】 地域の中で安心して暮らすために必要なこと

		第1位	第2位	第3位	
全位		高齢者や障がい者の社	地区で高齢者や障がい	健康づくりや介護予防の	
		会参加、生きがいづくり	者、子どもの見守り体制	取り組み	
	(n=768)	の支援 40.6%	をつくる 40.5%	35.8%	
	男性	高齢者や障がい者の社	地区で高齢者や障がい	健康づくりや介護予防の	
		会参加、生きがいづくり	者、子どもの見守り体制	取り組み	
性	(n=310)	の支援 39.4%	をつくる 37.7%	36.5%	
別	女性	地区で高齢者や障がい	高齢者や障がい者の社	健康づくりや介護予防の	
		者、子どもの見守り体制	会参加、生きがいづくり	取り組み	
	(n=448)	をつくる 42.6%	の支援 41.7%	35.5%	
	10•20 代	地区で高齢者や障がい	健康づくりや介護予防の	高齢者や障がい者の社	
		者、子どもの見守り体制	取り組み	会参加、生きがいづくり	
	(n=57)	をつくる 56.1%	45.6%	の支援 42.1%	
	30 代	地区で高齢者や障がい	高齢者や障がい者、子	一人ひとりが福祉に関	
		者、子どもの見守り体制	どもなど異なる世代が集	心を持つ	
		をつくる	まって交流する機会を増		
	(n=99)	54.5%	やす 33.3%	31.3%	
	40 代	高齢者や障がい者の社	地区で高齢者や障がい	一人ひとりが福祉に関	
年		会参加、生きがいづくり	者、子どもの見守り体制	心を持つ	
代	(n=133)	の支援 40.6%	をつくる 37.6%	32.3%	
別	50 代	高齢者や障がい者の社	高齢者や障がい者のた	健康づくりや介護予防の	
		会参加、生きがいづくり	めの外出支援サービス	取り組み	
	(n=118)		38.1%	36.4%	
	60 代	高齢者や障がい者の社	健康づくりや介護予防の	地区で高齢者や障がい	
		会参加、生きがいづくり	取り組み	者、子どもの見守り体制	
	(n=142)		38.7%	をつくる 38.0%	
	70 歳以上	健康づくりや介護予防の	高齢者や障がい者の社	地区で高齢者や障がい	
		取り組み	会参加、生きがいづくり	者、子どもの見守り体制	
	(n=210)	39.0%	の支援 38.1%	をつくる 37.1%	

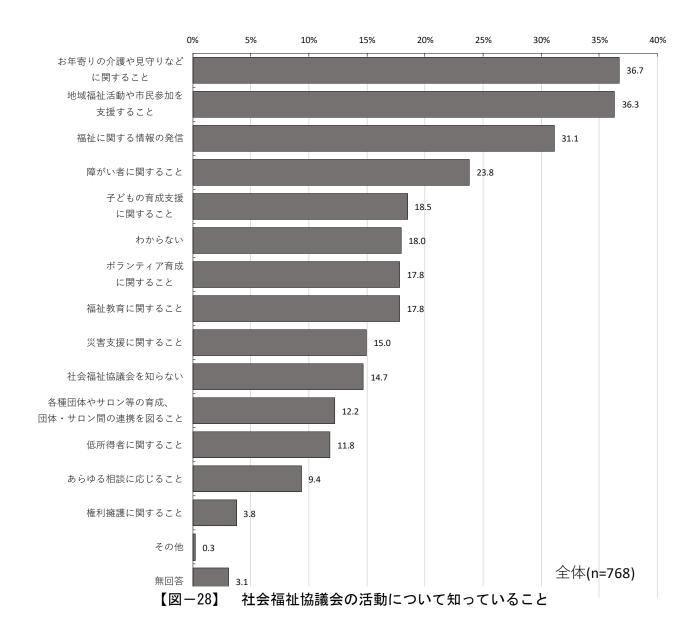
		第1位	第2位	第3位	
	穂積小学校区		地区で高齢者や障がい	健康づくりや介護予防の	
	偲惧小子仪		地区で高駅有や障がい 者、子どもの見守り体制	関係 りくりつり 護予防の 取り組み	
	(n=192)	云参加、生さかい つくり の支援		37.5%	
	本田小学校区	2 3002	<u>を ろる </u>	健康づくりや介護予防の	
	本田小子仪区	尚断句で障がい者の社会参		取り組み/地区で高齢	
		图1-日(1-14-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-16-	加、エピガル・フィッの大阪	者や障がい者、子どもの	
	(n=121)		41.3%	見守り体制をつくる	
	(,		1110/1	40.5%	
	牛牧小学校区	高齢者や障がい者の社	地区で高齢者や障がい	健康づくりや介護予防の	
		会参加、生きがいづくり	者、子どもの見守り体制	取り組み	
	(n=144)	の支援 47.9%	をつくる 38.9%	36.8%	
小	生津小学校区	高齢者や障がい者の社	健康づくりや介護予防の	地区で高齢者や障がい	
学		会参加、生きがいづくり	取り組み	者、子どもの見守り体制	
校	(n=83)	の支援 49.4%	38.6%	をつくる 37.3%	
区	南小学校区	地区で高齢者や障がい	高齢者や障がい者のた	健康づくりや介護予防の	
別		者、子どもの見守り体制	めの外出支援サービス	取り組み	
""	(n=97)	をつくる 44.3%	39.2%	32.0%	
	中小学校区	地区で高齢者や障がい	健康づくりや介護予防の	一人ひとりが福祉に関	
		者、子どもの見守り体制	取り組み	心を持つ/高齢者や障	
		をつくる		がい者、子どもなど異な	
				る世代が集まって交流 する機会を増やす/高	
				する機会を増しす/ 同 齢者や障がい者のため	
				の外出支援サービス	
	(n=45)	51.1%	31.1%	28.9%	
	西小学校区		地区で高齢者や障がい	高齢者や障がい者のた	
	2 2	会参加、生きがいづくり	者、子どもの見守り体制	めの外出支援サービス	
	(n=65)	の支援 41.5%	をつくる 36.9%	35.4%	
	生まれてからず	高齢者や障がい者の社会	健康づくりや介護予防の		
	っと	援 <mark>/</mark> 地区で高齢者や障が	取り組み		
	(n=139)				
	20 年以上	高齢者や障がい者の社		地区で高齢者や障がい	
	(272)	会参加、生きがいづくり	取り組み	者、子どもの見守り体制	
	(n=358)		38.8%	_	
居	10 年以上 20 年 未満	高齢者や障がい者の社会参加、生きがいづくり	ー人ひとりが福祉に関 心を持つ	健康づくりや介護予防の 取り組み	
住	木両 (n=123)		10を持り 38.2%	34.1%	
年	5年以上 10 年	地区で高齢者や障がい			
数	未満	者、子どもの見守り体制	会参加、生きがいづくり		
別	(n=53)		の支援 45.3%	37.7%	
	2年以上5年未			取り組み/高齢者や障が	
	満	者、子どもの見守り体制		けんが集まって交流する機	
	(n=52)	をつくる 51.9%	会を増やす	32.7%	
	1・2年未満	地区で高齢者や障がい	高齢者や障がい者の社	一人ひとりが福祉に関	
		者、子どもの見守り体制	会参加、生きがいづくり	心を持つ	
	(n=36)	をつくる 55.6%	の支援 41.7%	36.1%	

9 社会福祉協議会、民生委員・児童委員について

問 29

あなたが知っている社会福祉協議会の活動は次のうちのどれですか。 (あてはまる番号すべてに〇)

社会福祉協議会の活動について知っていることは、「お年寄りの介護や見守りなどに関すること」が 36.7%と最も高く、次いで「地域福祉活動や市民参加を支援すること」(36.3%)、「福祉に関する情報の発信」(31.1%)、「障がい者に関すること」(23.8%)、「子どもの育成支援に関すること」(18.5%)、「わからない」(18.0%)、「ボランティア育成に関すること」(17.8%)、「福祉教育に関すること」(17.8%)、「災害支援に関すること」(15.0%) などの順でした。



問30 あなたは民生委員・児童委員という言葉を聞いたことがありますか。(1つにO)

民生委員・児童委員については、「民生委員のみ聞いたことがある」が 48.8%と最も高く、次いで「どちらも聞いたことがある」(42.1%)、「どちらも聞いたことがない」(6.8%)、「児童委員のみ聞いたことがある」(1.2%) の順でした。

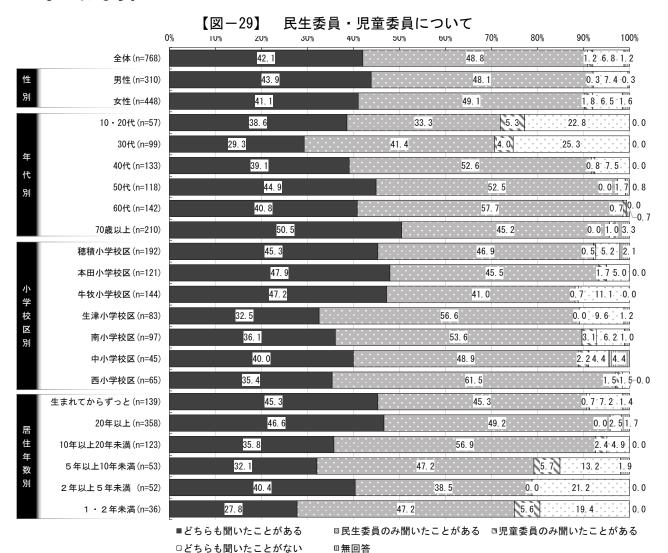
・ 属性の分析

性別でみると、男女間での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、30代では「どちらも聞いたことがない」が2割以上となっていますが、 10・20代と70歳以上では、「どちらも聞いたことがある」が最も高くなっています。

小学校区別でみると、本田小学校区と牛牧小学校区では「どちらも聞いたことがある」が最 も高くなっています。

居住年数別でみると、生まれてからずっとと2年以上5年未満では「どちらも聞いたことがある」が最も高くなっており、概ね居住年数が短いほど「どちらも聞いたことがない」が高くなっています。



問31 あなたはお住まいの地域の民生委員・児童委員を知っていますか。(1つにO)

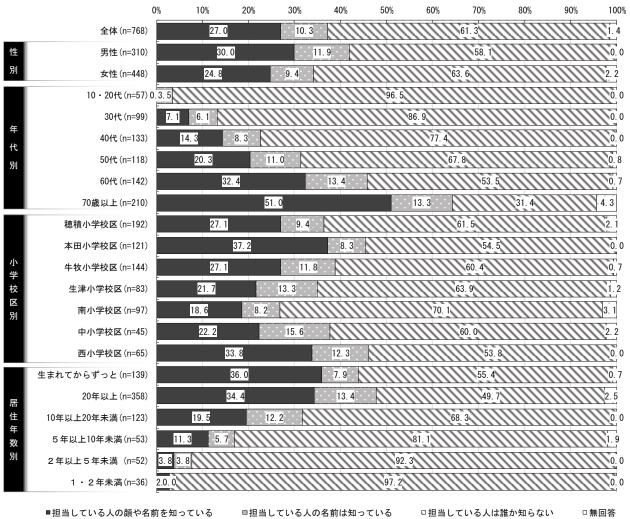
民生委員・児童委員を知っていますかについては、「担当している人は誰か知らない」が61.3%と最も高く、次いで「担当している人の顔や名前を知っている」(27.0%)、「担当している人の名前は知っている」(10.3%)の順でした。

・ 属性の分析

性別・小学校区別での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、70歳以上では「担当している人の顔や名前を知っている」が最も高くなっており、概ね年齢層が高いほど「担当している人の顔や名前を知っている」の割合が高くなっています。

居住年数別でみると、概ね居住年数が長くなるほど「担当している人の顔や名前を知っている」と「担当している人の名前は知っている」の割合が高くなっています。

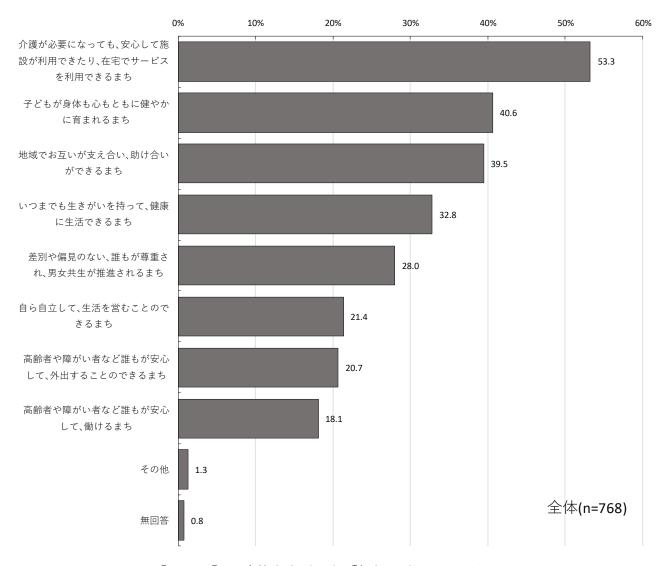


【図-30】 民生委員・児童委員を知っていますか

10 これからの市の福祉環境について

問32 あなたは瑞穂市をどんな「福祉のまち」にしたいと思いますか。(3つまで○)

瑞穂市をどんな「福祉のまち」にしたいかについては、「介護が必要になっても、安心して施設が利用できたり、在宅でサービスを利用できるまち」が53.3%と最も高く、次いで「子どもが身体も心もともに健やかに育まれるまち」(40.6%)、「地域でお互いが支え合い、助け合いができるまち」(39.5%)、「いつまでも生きがいを持って、健康に生活できるまち」(32.8%)、「差別や偏見のない、誰もが尊重され、男女共生が推進されるまち」(28.0%)、「自ら自立して、生活を営むことのできるまち」(21.4%) などの順となっています。



【図-31】 瑞穂市をどんな「福祉のまち」にしたいか

• 属性の分析

性別でみると、男性では全体で3位以下の「いつまでも生きがいを持って、健康に生活できるまち」が第2位となっています。

年代別でみると、30代以下では「子どもが身体も心もともに健やかに育まれるまち」が第1位となっています。

小学校区別でみると、南小学校区では「いつまでも生きがいを持って、健康に生活できるまち」が第3位となっており、他の小学校区では第4位・5位となっています。

居住年数別でみると、5年以上10年未満と2年以上5年未満と1・2年未満では「子どもが身体も心もともに健やかに育まれるまち」が第1位となっており、10年以上20年未満では、「介護が必要になっても、安心して施設が利用できたり、在宅でサービスを利用できるまち」と「子どもが身体も心もともに健やかに育まれるまち」が同率で第1位となっています。

以上のような特徴はありますが、多くの属性で「**介護が必要になっても、安心して施設が利 用できたり、在宅でサービスを利用できるまち」が第1位**となっています。

【表-6】 瑞穂市をどんな「福祉のまち」にしたいか

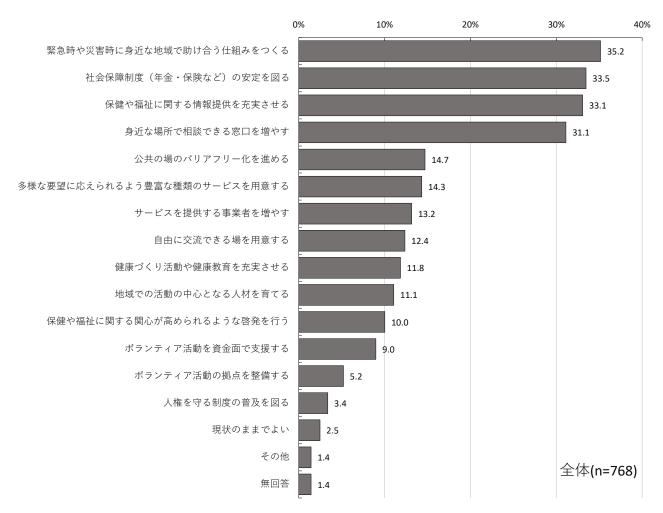
		【衣 ひ】 堀徳川をとか	プな「佃価のよう」にした	
		第1位	第2位	第3位
全位		介護が必要になっても、	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合
	(n=768)	安心して施設が利用で	に健やかに育まれるま	い、助け合いができるま
		きたり、在宅でサービス	ち	ち
		を利用できるまち 53.3%	40.6%	39.5%
	男性	介護が必要になっても、	いつまでも生きがいを持	地域でお互いが支え合
	(n=310)		って、健康に生活できる	い、助け合いができるま
		きたり、在宅でサービス	まち	ち
性		を利用できるまち 43.9%	37.7%	37.1%
別	女性	介護が必要になっても、	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合
	(n=448)	安心して施設が利用で	に健やかに育まれるま	い、助け合いができるま
		きたり、在宅でサービス	5	5
		を利用できるまち 60.3%	44.2%	41.3%
	10-20代	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合	差別や偏見のない、誰も
	(n=57)		い、助け合いができるま	が尊重され、男女共生が
	00 /1	<u>ち 56.1%</u>	5 54.4%	推進されるまち 38.6%
	30代	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合	いつまでも生きがいを持
	(n=99)	に健やかに育まれるま	い、助け合いができるま	って、健康に生活できる
		ち	ち	まち/差別や偏見のな
				い、誰もが尊重され、男
		62.6%	40.4%	女共生が推進されるま ち 33.3%
	40 代	介護が必要になっても、	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合
	(n=133)	安心して施設が利用で	に健やかに育まれるま	い、助け合いができるま
年	(11-133)	きたり、在宅でサービス	ち	ち
一代		を利用できるまち 51.9%	44.4%	34.6%
別	50 代	介護が必要になっても、	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合
,,,	(n=118)	71 HZ 11 12 211 0 1 1 0 1	に健やかに育まれるま	い、助け合いができるま
	, ,	きたり、在宅でサービス	5	5
		を利用できるまち 57.6%	41.5%	35.6%
	60 代	介護が必要になっても、	いつまでも生きがいを持	地域でお互いが支え合
	(n=142)	安心して施設が利用で		い、助け合いができるま
		きたり、在宅でサービス	まち	ち
		を利用できるまち 59.2%	38.0%	33.8%
	70 歳以上	介護が必要になっても、	地域でお互いが支え合	いつまでも生きがいを持
	(n=210)	安心して施設が利用で	い、助け合いができるま	って、健康に生活できる
		きたり、在宅でサービス		まち
		を利用できるまち 65.7%	44.3%	31.0%

		第1位	第2位	第3位
	穂積小学校区	介護が必要になっても、	子どもが身体も心もともに	健やかに育まれるまち/
	(n=192)	安心して施設が利用で	地域でお互いが支え合い、	
	•	きたり、在宅でサービス		
		を利用できるまち 54.7%		40.6%
	本田小学校区	介護が必要になっても、	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合
	(n=121)	安心して施設が利用で	に健やかに育まれるま	い、助け合いができるま
		きたり、在宅でサービス	ち	ち
		を利用できるまち 52.9%	45.5%	39.7%
	牛牧小学校区	介護が必要になっても、	子どもが身体も心もとも	地域でお互いが支え合
	(n=144)	安心して施設が利用で	に健やかに育まれるま	い、助け合いができるま
		きたり、在宅でサービス	ち	ち
小		を利用できるまち 55.6%	45.1%	41.7%
学	生津小学校区	介護が必要になっても、	地域でお互いが支え合	子どもが身体も心もとも
校	(n=83)	安心して施設が利用で	い、助け合いができるま	に健やかに育まれるま
区		きたり、在宅でサービス	ち	ち
別	1 3V II	を利用できるまち 50.6%	39.8%	38.6%
	南小学校区	介護が必要になっても、	地域でお互いが支え合	いつまでも生きがいを持
	(n=97)	安心して施設が利用で	い、助け合いができるま	って、健康に生活できる
		きたり、在宅でサービス	5	まち
	中小学技区	を利用できるまち 44.3%	39.2%	36.1%
	中小学校区 (n=45)	介護が必要になっても、 安心して施設が利用で	子どもが身体も心もとも に健やかに育まれるま	地域でお互いが支え合い、助け合いができるま
	(n–45)	きたり、在宅でサービス	ち	が、助けらいかできるより
		を利用できるまち 62.2%	31.1%	28.9%
	西小学校区	介護が必要になっても、	地域でお互いが支え合	子どもが身体も心もとも
	(n=65)	安心して施設が利用で	い、助け合いができるま	に健やかに育まれるま
	(11 00)	きたり、在宅でサービス	ち	ち
		を利用できるまち 60.0%	46.2%	36.9%
	生まれてからず	介護が必要になっても、	地域でお互いが支え合	子どもが身体も心もとも
	っと (n=139)	安心して施設が利用で	い、助け合いができるま	に健やかに育まれるま
		きたり、在宅でサービス	5	5
		を利用できるまち 47.5%	41.0%	34.5%
	20 年以上	介護が必要になっても、	地域でお互いが支え合	いつまでも生きがいを持
	(n=358)	安心して施設が利用で	い、助け合いができるま	って、健康に生活できる
		きたり、在宅でサービス	ち	まち
		を利用できるまち 62.6%	39.7%	34.6%
居	10 年以上 20 年		心して施設が利用できた	地域でお互いが支え合
住	未満 (n=123)		<mark>できるまち</mark> /子どもが身体	い、助け合いができるま
年		も心もともに健やかに育ま		5 35.8%
数	5年以上 10 年	子どもが身体も心もとも		介護が必要になっても、
別	未満 (n=53)	に健やかに育まれるま		安心して施設が利用で
		5.4.7%	5	きたり、在宅でサービス
	o左以上c左士	54.7%	49.1%	を利用できるまち 45.3%
	2年以上5年未	子どもが身体も心もともに健めかに奔まれるま	介護が必要になっても、	地域でお互いが支え合い、サイクンができるま
	満 (n=52)	に健やかに育まれるま *	安心して施設が利用で	い、助け合いができるまち
		ち 63.5%	きたり、在宅でサービス を利用できるまち 40.4%	
	 1·2年未満	子どもが身体も心もとも	差別や偏見のない、誰も	34.6% 地域でお互いが支え合
	1•2年未満 (n=36)	ナともか身体も心もとも に健やかに育まれるま	を別や偏見のない、誰も が尊重され、男女共生が	心、助け合いができるま
	(11–30)	ち 63.9%	が导重され、男女共主が 推進されるまち 47.2%	ち 41.7%
ш		03.8%	11年に4で0より 47.2%	41.7%

問 33

あなたは、瑞穂市の保健・福祉施策として、今後、どのような取り組みが重要と思いますか。(3つまでO)

今後重要だと思う保健・福祉施策については、「緊急時や災害時に身近な地域で助け合う仕組みをつくる」が35.2%と最も高く、次いで「社会保障制度(年金・保険など)の安定を図る」(33.5%)、「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」(33.1%)、「身近な場所で相談できる窓口を増やす」(31.1%)、「公共の場のバリアフリー化を進める」(14.7%)、「多様な要望に応えられるよう豊富な種類のサービスを用意する」(14.3%)、「サービスを提供する事業者を増やす」(13.2%)、「自由に交流できる場を用意する」(12.4%)などの順となっています。



【図-32】 今後重要だと思う保健・福祉施策について

・属性の分析

性別でみると、男性では「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」が第1位となっています。

年代別でみると、10・20代と60代では「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」が第1位となっており、40代では「社会保障制度(年金・保険など)の安定を図る」が第1位、50代では「身近な場所で相談できる窓口を増やす」が第1位となっています。

小学校区別でみると、穂積小学校区では「身近な場所で相談できる窓口を増やす」と「保健 や福祉に関する情報提供を充実させる」が同率で第1位、本田小学校区と南小学校区と中小学 校区では「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」が第1位、牛牧小学校区では「社会保 障制度(年金・保険など)の安定を図る」が第1位となっています。

居住年数別でみると、生まれてからずっとと1・2年未満では「保健や福祉に関する情報提供を充実させる」が第1位、10年以上20年未満では「身近な場所で相談できる窓口を増やす」と「社会保障制度(年金・保険など)の安定を図る」が同率で第1位、5年以上10年未満では「身近な場所で相談できる窓口を増やす」が第1位となっています。

		第1位	第2位	第3位
全位	‡	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保	保健や福祉に関する情
		な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る	報提供を充実させる
	(n=768)	みをつくる 35.2%	33.5%	33.1%
	男性	保健や福祉に関する情	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保
		報提供を充実させる	な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る
性	(n=310)	38.7%	みをつくる 35.2%	32.9%
別	女性	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保	身近な場所で相談でき
		な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る	る窓口を増やす
	(n=448)	みをつくる 35.3%	33.9%	33.5%
	10-20代	保健や福祉に関する情	緊急時や災害時に身近	身近な場所で相談でき
		報提供を充実させる	な地域で助け合う仕組	る窓口を増やす
	(n=57)	40.4%	みをつくる 36.8%	31.6%
	30代	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保	保健や福祉に関する情
		な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る	報提供を充実させる
	(n=99)	みをつくる 36.4%	33.3%	27.3%
	40 代	社会保障制度(年金・保	緊急時や災害時に身近	身近な場所で相談でき
ا ہر ا		険など)の安定を図る	な地域で助け合う仕組	る窓口を増やす
年代	(n=133)	37.6%	みをつくる 30.8%	30.1%
別	50 代	身近な場所で相談でき	保健や福祉に関する情	社会保障制度(年金・保
ניכ		る窓口を増やす	報提供を充実させる	険など)の安定を図る
	(n=118)	36.4%	35.6%	29.7%
	60代	保健や福祉に関する情	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保
		報提供を充実させる	な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る
	(n=142)	39.4%	みをつくる 38.7%	31.0%
	70 歳以上	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保	身近な場所で相談でき
		な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る	る窓口を増やす
	(n=210)	みをつくる 41.0%	36.2%	34.8%

		第1位	第2位	第3位
	穂積小学校区	身近な場所で相談できる	社会保障制度(年金・保	
		祉に関する情報提供を充っ	険など)の安定を図る	
	(n=192)		33.3%	32.3%
	本田小学校区	保健や福祉に関する情	緊急時や災害時に身近	身近な場所で相談でき
		報提供を充実させる	な地域で助け合う仕組	る窓口を増やす
	(n=121)	36.4%	みをつくる 33.9%	32.2%
	牛牧小学校区	社会保障制度(年金・保	緊急時や災害時に身近	保健や福祉に関する情
		険など)の安定を図る	な地域で助け合う仕組	報提供を充実させる
小	(n=144)	1.0%	みをつくる 40.3%	28.5%
学	生津小学校区	緊急時や災害時に身近	身近な場所で相談でき	社会保障制度(年金・保
校		な地域で助け合う仕組	る窓口を増やす	険など)の安定を図る
区	(n=83)	みをつくる 42.2%	33.7%	32.5%
別	南小学校区	保健や福祉に関する情	身近な場所で相談でき	社会保障制度(年金・保
		報提供を充実させる	る窓口を増やす	険など)の安定を図る
	(n=97)	40.2%	38.1%	27.8%
	中小学校区	保健や福祉に関する情	緊急時や災害時に身近	身近な場所で相談でき
		報提供を充実させる	な地域で助け合う仕組	る窓口を増やす
	(n=45)	35.6%	みをつくる 31.1%	26.7%
	西小学校区	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保	保健や福祉に関する情
		な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る	報提供を充実させる
	(n=65)	みをつくる 49.2%	38.5%	30.8%
	生まれてからず	保健や福祉に関する情	緊急時や災害時に身近	社会保障制度(年金・保
	っと	報提供を充実させる	な地域で助け合う仕組	険など)の安定を図る
	(n=139)	36.7%	みをつくる 35.3%	34.5%
	20 年以上	緊急時や災害時に身近	保健や福祉に関する情	社会保障制度(年金・保
		な地域で助け合う仕組	報提供を充実させる	険など)の安定を図る
	(n=358)	みをつくる 36.6%	35.2%	32.7%
	10年以上 20年	社会保障制度(年金・保障	緊急時や災害時に身近	
居	未満	近な場所で相談できる窓口	コを増やす	な地域で助け合う仕組
住	(n=123)		34.1%	7 - 10
年	5年以上 10 年	身近な場所で相談でき		地域で助け合う仕組みを
数	未満	る窓口を増やす		金・保険など)の安定を図
別	(n=53)	32.1%	3	30.2%
	2年以上5年未		地域で助け合う仕組みを	公共の場のバリアフリー
	満		金・保険など)の安定を図	化を進める
	(n=52)	3	36.5%	28.8%
	1・2年未満	保健や福祉に関する情	社会保障制度(年金・保	緊急時や災害時に身近
		報提供を充実させる	険など)の安定を図る	な地域で助け合う仕組
				<mark>みをつくる</mark> /身近な場所
	,	.,	26.11	で相談できる窓口を増や
	(n=36)	41.7%	36.1%	す 33.3%

問34

あなたは、災害時や緊急時において、障がいのある人やひとり暮らしの高齢者などに対して避難支援や安否確認などの支援を行うためには、どのような体制をつくることがよいと思いますか。(1つにO)

災害時や緊急時の避難支援や安否確認などの支援については、「行政、民生委員・児童委員、自治会、社会福祉協議会の連携を深め、新たなネットワークをつくり、支援を行う」が31.3%と最も高く、次いで「行政が要支援者(支援を必要とする人)名簿を整備し、自主防災組織など地域の助け合い活動のなかで支援を行う」(24.3%)、「民生委員・児童委員や自治会を中心として、要支援者の名簿を整備し、地域の助け合い活動のなかで支援を行う」(20.8%)、「わからない」(11.6%)「社会福祉協議会が中心となり、地域ボランティア活動のなかで支援を行う」(5.7%)の順でした。

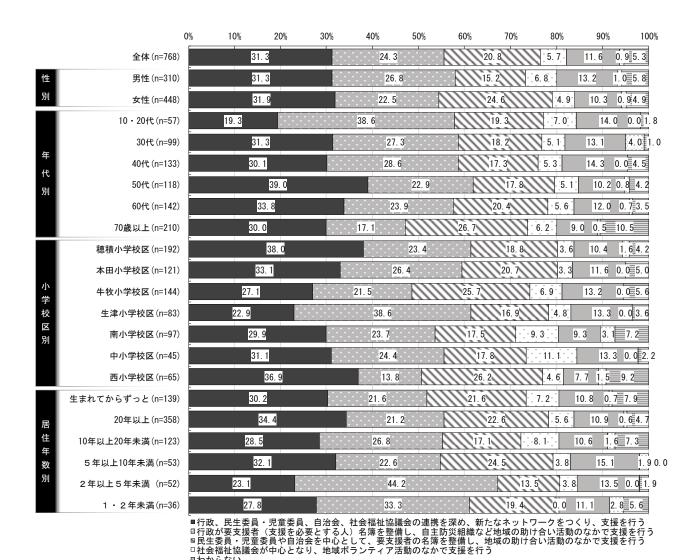
・属性の分析

性別での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、10・20代では「行政が要支援者(支援を必要とする人)名簿を整備し、 自主防災組織など地域の助け合い活動のなかで支援を行う」(38.6%)が最も高くなっています。

小学校区別でみると、生津小学校区では「行政が要支援者(支援を必要とする人)名簿を整備し、自主防災組織など地域の助け合い活動のなかで支援を行う」(38.6%)が最も高くなっています。

居住年数別でみると、1・2年未満と2年以上5年未満では「行政が要支援者(支援を必要とする人)名簿を整備し、自主防災組織など地域の助け合い活動のなかで支援を行う」が最も高くなっています。



これ云相に励成云が中心となり、心場がフンティテル到のながでえ返さロラ ロわからない ロその他 ロ無回答

災害時や緊急時の避難支援や安否確認などの支援

【図-33】

問35

あなたは、あなたのお住まいの地域の災害時避難場所を知っていますか。

(1つに0)

地域の災害時避難場所を知っているかについては、「知っている」が 76.8%、「知らない」 が 17.8%でした。

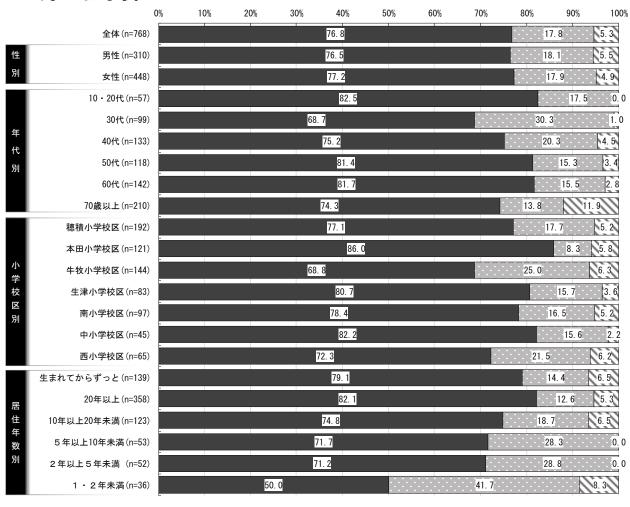
・ 属性の分析

性別・小学校区別での大きな違いはみられませんでした。

年代別でみると、30代の「知っている」が68.7%で、ほかの年代と比較して低くなっています。

小学校区別でみると、本田小学校区では「知っている」が 86.0%で、ほかの小学校区と比較して高く、牛牧小学校区では 68.8%と低くなっています。

居住年数別でみると、1・2年未満の「知っている」が50.0%でほかの年数に比較して低くなっています。



【図-34】 地域の災害時避難場所を知っているか

□知らない

□無回答

■知っている

アンケート調査票

瑞穂市地域福祉計画見直しのための

市民アンケート調査 ご協力のお願い

市民の皆さまには、日頃から市政に対し格別のご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

瑞穂市では、市民がともに支え合う福祉社会の実現に向けた各種施策を推進するための 「瑞穂市地域福祉計画」の見直し作業を進めております。

今回の調査は、18 歳以上の市民 2,000 人を対象に抽出し、皆様の普段の暮らし方や考え方、市へのご意見をお寄せいただき、計画を策定するための基礎資料として実施するものです。

ご記入いただいた内容については、瑞穂市個人情報保護条例にもとづき、適正な処理を行いますので、回答者個人が特定されることはありません。

お忙しいところ恐縮ですが、調査の目的、趣旨をご理解のうえ、率直なご意見をお聞かせください。より良い市政を行うために、少しでも多くのご意見をおよせください。

令和2年1月

瑞穂市長

≪調査票の記入にあたって≫

- 1. 宛名のご本人がお答えください。ただし、ご本人がお答えになれない場合は、ご家族の方がお答えください。
- 2. お答えは、設問ごとに(1つに○)、(<u>あてはまる番号すべてに○</u>) などそれ ぞれ指定されていますので、お間違えのないようお願いします。
 - \bigcirc 印は、番号を囲むように濃くつけてください(例 (1).)。
- 3. お答えいただいた内容は統計的に処理し、プライバシーに係わる内容を公表することは絶対にありません。
- 4. ご記入いただいた調査票は**1月24日(金)**までに同封の返信用封筒に入れて返送してください(切手は不要です)。
- 5. この調査票についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

瑞穂市役所 地域福祉高齢課

電 話:058-327-4126 F A X:058-327-4143

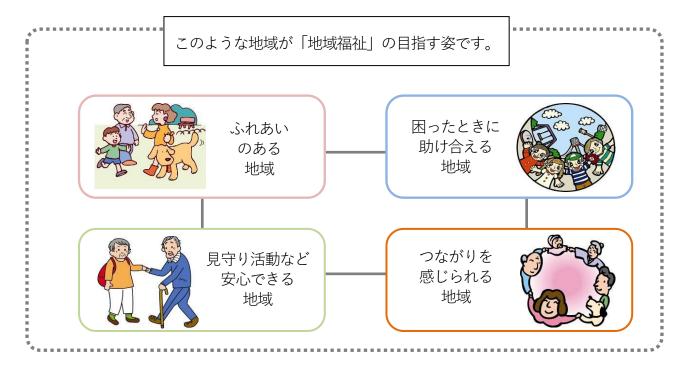
地域福祉とは?

「福祉」というと、高齢者福祉・障がい者福祉・児童福祉など、対象者ごとに分かれた制度やサービスのイメージがあります。

これは、必要な福祉サービスが対象者ごとの法律や制度によって提供されてきたことが大きな要因にあります。

「地域福祉」とは、誰もが住みなれた地域の中で、安心して暮らせるように、一人ひとりの努力(自助)、住民同士の支え合い・助け合い(互助)、制度化された相互扶助などの活用(共助)、公的な支援・制度(公助)を連携させて、地域の様々な生活課題を解決していくことです。

近隣の人とのつきあいや、困ったことがあれば助け合う、声をかけ合うという関係は、地 域福祉の目指すひとつの姿です。



また、国では、地域に暮らすすべての人が支え合う仕組みを強化するため、「我が事・丸ごとの地域共生社会の実現」という方針を打ち出しました。

「地域共生社会」とは、"地域住民や地域の多様な主体が、「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていく社会"のことであり、こうした社会の実現に向けた取り組みが進められつつあります。

あなたご自身のことについて

問1 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他
- 4. 答えたくない

問2 現在のあなたの年齢をお答えください。(1つに○)

1. 10 · 20 代

2.30代

3.40代

4.50代

5.60代

6.70歳以上

問3 あなたを含め、同居されている家族構成をお答えください。(1つに○)

1. ひとり世帯

- 2. 夫婦だけの世帯
- 3. 親・子どもの二世代世帯
- 4. 親・子ども・孫の三世代世帯
- 5. その他()

問4 あなた自身、またはあなたが同居している家族のなかに、次のような方はいらっしゃ いますか。(あてはまる番号すべてに○)

- 1. 妊産婦・乳児(1歳未満)
- 2. 乳児を除く小学校前の幼児

3. 小学生

4. 中学生・高校生

5.65~74歳の方

- 6.75歳以上の方
- 7. 介護を必要とする方(要介護認定者) 8. 障がいのある方

9. いずれもいない

問5 あなたのお住まいの小学校区をお答えください。(1つに○)

1. 穂積小学校区

2. 本田小学校区

3. 牛牧小学校区

4. 生津小学校区

5. 南小学校区

6. 中小学校区

7. 西小学校区

8. わからない

(住所:瑞穂市

)

問6 あなたの瑞穂市での居住年数をお答えください。(1つに○)

1. 生まれてからずっと

2. 20 年以上

3. 10 年以上 20 年未満

4.5年以上10年未満

5. 2年以上5年未満

6. 1·2年未満

地域とのかかわりについて

問7 あなたにとって、市民が互いに助け合いの活動ができる「地域」とはどんな範囲だと 思いますか。(1つに○)

1. となり近所

2. 組(班) 単位

3. 自治会単位

4. 小学校区単位

5. 市全域

6. その他(

7. わからない

問8 あなたのご近所との関係は次のどれに最も近いですか。(1つに○)

- 1. 困ったときに助け合う親しい人がいる
- 2. お互いに訪問し合う人がいる
- 3. 立ち話をする程度の人がいる
- 4. 会えばあいさつをする程度の人がいる
- 5. ほとんど近所とのつきあいはない
- 6. その他(具体的に:

問9 お住まいの地域は暮らしやすいと思いますか。(1つに○)

- 1. とても暮らしやすい
- 2. どちらかというと暮らしやすい
- 3. どちらかというと暮らしにくい
- 4. 暮らしにくい (理由:

地域福祉について

問 10 あなたは、地域で生じている様々な福祉分野の生活課題(高齢者・障がいのある人の 生活、子育て、健康づくりに関する問題など)に対し、地域住民が自主的にお互いに支 え合い、助け合う関係が必要だと思いますか。(1つに○)

1. 必要だと思う

2. どちらかというと必要だと思う

3. どちらかというと必要だとは思わない 4. 必要だとは思わない

5. わからない

問 11 あなたがお住まいの地域で、高齢者や障がいのある人、子ども、子育てなどで困って いるご家庭があった場合、あなたにできることは何だと思いますか。

(あてはまる番号すべてに○)

1. 外出への同行

2. 手紙の代筆・電話かけ

3. 新聞や本の代読

4. 話し相手

5. 相談相手

6. あいさつや安否確認などの声かけ

7. ごみ出し

8. 食事の用意

9. 買い物の手伝い・代行

10. 玄関前などの掃除・庭の手入れ

11. 幼稚園などへの送り迎え

12. 子どもの登下校時の見守り

13. 災害時の避難支援・安否確認

14. 住居内の荷物の移動

15. 短時間の子守り

16. 防犯のための巡回

17. その他(

18. 特にできることはない

問 12 あなたは、地域での福祉活動を推進していくうえで、市民と行政との関係はどうある べきだとお考えですか。(1つに○)

)

- 1. 福祉サービスの充実のために、市民も行政も協力し合ってともに取り組むべきで ある
- 2. 家庭や地域をはじめ市民同士で助け合い、手の届かない部分は行政が支援すべき である
- 3. 行政が担当すべきだが、手の届かない部分は市民が協力すべきである
- 4. 福祉サービスは行政が担当すべきで、市民はあまり協力することはない
- 5. わからない

ボランティア活動について

問 13 あなたは、ボランティア活動を行ったことがありますか。(1つに○)

1. 現在活動している

2. 以前活動したことがある

3. 活動したことがない

問 13 で「1. 現在活動している」と回答した方だけお答えください。

·····▶問 13-1 あなたが現在取り組んでいるボランティア活動の具体的な内容は次のどれで すか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 相談や安否確認

2. 介護・介助

3. 家事援助

4. コミュニケーション支援(手話・点訳など)

5. 外出支援

- 6. 子育て支援
- 7. 行事・レクリエーション活動の支援 8. 教育・学習の支援
- 9. 文化・芸術活動支援
- 10. 自立の支援(就労支援など)
- 11. 資金援助(募金、寄附も含む) 12. 自警団活動
- 13. 配食サービス活動
- 14. 奉仕活動

15. その他(

問 14 あなたは、今後、ボランティア活動に参加する気持ちがありますか。(1つに○)

- 1. 何らかのボランティア活動に参加したい(あるいは今後とも活動を続けたい)
- 2. ボランティア活動への興味はあるが、参加する機会がない
- 3. ボランティア活動への興味はあるが、参加しようとは思わない
- 4. ボランティア活動に参加するつもりはない

問 15 あなたは、ボランティア活動の輪を広げるために、今後どのようなことが特に重要だ と考えますか。(1つに〇)

- 1. 活動の内容を知らせる広報を充実する
- 2. 地域での学習・活動を調整する人材を 育成する

)

- 3. 地域での学習・研修の機会や内容の 充実を図る
- 4. 資金面の援助を充実する
- 5. 学校での福祉教育を充実する
- 6. 地域の福祉の実態を市民に伝える

7. 教育・学習の支援

8. その他(

市の保健・福祉に関する情報の入手について

問 16 あなたは、保育、健康診査、高齢者や障がい者への福祉サービスなどの情報をどのよ うに入手していますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 市役所の窓口

2. 広報紙

3. 市のホームページ (インターネット)

4. 社会福祉協議会の窓口

5. 包括支援センター・保健センター

6. 民生委員、介護支援専門員などからの 情報

7. 自治会の回覧板

8. 自治会での寄合い(会合)

9. 家族・親戚

10. 近所の人・知人

11. 学校・職場

12. かかりつけの医院

13. その他(

)

く 用語解説 >

「介護支援専門員 |

通称ケアマネジャーのこと。「介護保険制度」において、要支援または要介護と認定された人が、 適切な介護サービスを受けられるようにするために、介護サービス計画(ケアプラン)を作成する 専門職のことです。

相談について

問 17 あなたは暮らしの問題で困ったときに、誰に相談しますか。 (あてはまる番号すべてに○)

1. 同居の家族

2. 別居の家族

3. 親戚

4. 知人、友人

5. 近所の人

6. ボランティア

7. 市役所の窓口

8. 社会福祉協議会

9. 民生委員・児童委員

11. 介護支援専門員やホームヘルパー等

12. かかりつけの医院

10. 包括支援センター・保健センター

13. 福祉関係の団体等

14. 弁護士

15. 消費生活相談窓口

16. 誰にも相談したくない

17. 相談したくても相手が誰もいない 18. その他(

問 18 あなたは、市役所に相談や手続きに行く場合、どのような窓口だと良いと思いますか。(3つまで○)

- 1. 別の部署のことも含めて自分に必要な情報や手続きがすぐわかる
- 2. 市役所が行っているサービスだけでなく、その他の公的機関や民間のサービス についても知ることができる
- 3. 1か所で何でも相談や手続きをすることができる
- 4. 相談や手続きの窓口を案内してくれる係員がいる
- 5. 書類の書き方が簡単で、提出する書類が少ない
- 6. 身近なところで相談や手続きができる
- 7. 自宅からインターネットで必要な情報や申請書を入手したり、申請手続きができる
- 8. 個別の相談室がある
- 9. 障がいがある人や子ども連れの人でも相談や手続きがしやすい設備が整っている
- 10. その他(具体的に:

人権・権利擁護について

- 問 19 あなたは、児童や高齢者への虐待、家庭内暴力を知った場合に、市など公的機関に速 やかに通報する義務が市民にあることをご存知でしたか。(1つに〇)
 - 1. 知っている

2. 知らなかった

)

- 問 20 あなたは、日常生活自立支援事業(※下記の用語解説参照)について、どの程度ご存知ですか。(1つに〇)
 - 1. 聞いたことはあるが、内容までは知らない
 - 2. 制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む)
 - 3. 下記の用語解説で初めて知った

く 用語解説 >

「日常生活自立支援事業 |

判断能力の不十分な方々(認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等)を対象に、福祉サービス利用手続に関する相談・援助、日常的な金銭管理等を行う制度です。

問 21 あなたは、成年後見制度 (※下記の用語解説参照) について、どの程度ご存知ですか。 (1つに〇)

- 1. 聞いたことはあるが、内容までは知らない
- 2. 制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む)
- 3. 下記の用語解説で初めて知った

く 用語解説 >

「成年後見制度」

判断能力の不十分な方々(認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者等)が日常生活における不利益を受けないよう、本人の権利を守り支援する制度です。

問 22 あなた自身が認知症などで判断が十分にできなくなった時に、「成年後見制度」を利用したいと思いますか。(1つに○)

- 1. 利用したい
- 2. 利用したくない
- 3. わからない

問 23 今後、高齢化が進む中で、成年後見制度の利用促進・充実を図っていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで〇)

- 1. 成年後見制度についての周知・広報活動の推進
- 2. 高齢者や障がいのある人の権利擁護に関する相談窓口や相談体制の充実
- 3. 成年後見制度の利用が必要な市民の把握や支援につなげるための、専門職種 (医療・福祉・法律)を中心とした連携
- 4. 成年後見人による不正な行為の防止
- 5. 本人に身近な存在である地域の住民が市民後見人として支えていく体制の構築
- 6. その他(



いのちの支え合いについて

問24 あなたは、「孤立死」について知っていますか。(1つに○)

- 1. 聞いたことがあるが、自分には関係ない(よくわからないを含む)
- 2. 聞いたことがあり、自分のこととして考えたことがある
- 3.下記の用語解説で初めて知った

◆孤立死

ひとり暮らしの人が、会社や家族、近所など、社会的つながりから孤立し、誰にも看取られることなく、亡くなったあとに発見されることで、「孤独死」とも言われます。

問25 あなたは、「自殺対策基本法」(※下記の用語解説参照)という法律を知っていますか。 (1つに○)

- 1. 聞いたことはあるが、内容までは知らない
- 2. 制度の内容まで知っている(概要がわかるを含む)
- 3. 下記の用語解説で初めて知った

◆自殺対策基本法

自殺対策基本法は、自殺の防止と自殺者の家族等への支援の充実を目的として、平成18年に制定された法律です。平成28年に改正され、「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現」に向けた取り組みを進めることとしています。

問26 あなたは、自殺対策を自分自身に関わる問題だとおもいますか。 (1つに○)

1. そう思う

- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない
- 5. どちらともいえない

問27 あなたは、自殺を減少させるために重要だと思うことは何ですか。 (3つまで○)

- 1. 自殺対策を専門的、かつ、幅広い視点から考えることができる組織・会議の設置
- 2. 自殺予防に関する広報・啓発活動の充実
- 3. 様々な悩みに対応できる相談体制の整備
- 4. 身近な地域における見守り・支え合いの充実
- 5. 早期対応の中心的役割を果たすゲートキーパーの養成(※下記の用語解説参照)
- 6. 職場におけるメンタルヘルス対策の推進
- 7. 市民を対象とした心の健康づくりに関する学習機会の提供
- 8. 児童・生徒への「いのちの教育」や「SOSの出し方教育」の実施
- 9. 自殺未遂をした人への支援
- 10. 自殺した人の遺族への支援
- 11. 精神科医療体制の充実
- 12. 自己診断ができる機会の提供(心の体温計の充実など) http://www.city.mizuho.lg.jp/1464.htm
- 13. その他(具体的に:

◆ゲートキーパー

ゲートキーパーは、身近な人の自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)ができる人のこと。いわば「いのちの門番」とも位置づけられる人のことです。

問 28 地域の中で安心して暮らすためにどんなことが必要なことと思いますか。 (3つまで○)

- 1. 高齢者や障がい者、子どもなど異なる 世代が集まって交流する機会を増や す
- 2. 地区で高齢者や障がい者、子どもの見 守り体制をつくる
- 3. 高齢者や障がい者のための外出支援サービス
- 4. 高齢者や障がい者の社会参加、生きがいづくりの支援

- 5. 健康づくりや介護予防の取り組み
- 6. 地区での座談会の開催
- 7. 一人ひとりが福祉に関心を持つ
- 8. 特に必要なし
- 9. その他(具体的に:)

社会福祉協議会、民生委員・児童委員について

問 29 あなたが知っている社会福祉協議会の活動は次のうちのどれですか。 (あてはまる番号すべてに○)

- 1. 地域福祉活動や市民参加を支援すること
- 2. ボランティア育成に関すること
- 3. 福祉教育に関すること
- 4. 福祉に関する情報の発信
- 5. 災害支援に関すること
- 6. お年寄りの介護や見守りなどに関すること
- 7. 障がい者に関すること
- 8. 子どもの育成支援に関すること
- 9. 低所得者に関すること
- 10. あらゆる相談に応じること
- 11. 各種団体やサロン等の育成、団体・サロン間の連携を図ること
- 12. 権利擁護に関すること
- 13. その他(具体的に:
- 14. わからない
- 15. 社会福祉協議会を知らない

問 30 あなたは民生委員・児童委員という言葉を聞いたことがありますか。(1つに○)

)

- 1. どちらも聞いたことがある
- 2. 民生委員のみ聞いたことがある
- 3. 児童委員のみ聞いたことがある
- 4. どちらも聞いたことがない

問31 あなたはお住まいの地域の民生委員・児童委員を知っていますか。(1つに○)

- 1. 担当している人の顔や名前を知っている
- 2. 担当している人の名前は知っている
- 3. 担当している人は誰か知らない

これからの市の福祉環境についておたずねします。

問 32 あなたは瑞穂市をどんな「福祉のまち」にしたいと思いますか。

(3つまで○)

- 1. 自ら自立して、生活を営むことのできるまち
- 2. 地域でお互いが支え合い、助け合いができるまち
- 3. 差別や偏見のない、誰もが尊重され、男女共生が推進されるまち
- 4. 子どもが身体も心もともに健やかに育まれるまち
- 5. 高齢者や障がい者など誰もが安心して、働けるまち
- 6. 高齢者や障がい者など誰もが安心して、外出することのできるまち
- 7. 介護が必要になっても、安心して施設が利用できたり、在宅でサービスを利用できるまち
- 8. いつまでも生きがいを持って、健康に生活できるまち
- 9. その他(具体的に:)

問33 あなたは、瑞穂市の保健・福祉施策として、今後、どのような取り組みが重要と思いますか。(3つまで〇)

- 1. 保健や福祉に関する情報提供を充実させる
- 3. 自由に交流できる場を用意する
- 5. 緊急時や災害時に身近な地域で助け合う仕組みをつくる
- 7. ボランティア活動の拠点を整備する
- 9. 地域での活動の中心となる人材を育てる
- 11. サービスを提供する事業者を増やす
- 13. 保健や福祉に関する関心が高められるような啓発を行う
- 15. 現状のままでよい

- 2. 身近な場所で相談できる窓口を増やす
- 4. 公共の場のバリアフリー化を進める
- 6. 人権を守る制度の普及を図る
- 8. ボランティア活動を資金面で支援する
- 10. 多様な要望に応えられるよう豊富な 種類のサービスを用意する
- 12. 健康づくり活動や健康教育を充実させる
- 14. 社会保障制度(年金・保険など)の 安定を図る
- 16. その他

問 34	あなたは、	災害時や緊	急時において	こ、障がい	のある人	やひとり	暮らしの	高齢者なる	どに
Ż	対して避難	支援や安否	確認などの支	援を行う	ためには	、どのよ	うな体制を	をつくる	こと
7	がよいと思い	いますか。(1つに()						

- 行政、民生委員・児童委員、自治会、社会福祉協議会の連携を深め、新たなネットワークをつくり、支援を行う
 行政が要支援者(支援を必要とする人)名簿を整備し、自主防災組織など地域の助け合い活動のなかで支援を行う
 民生委員・児童委員や自治会を中心として、要支援者の名簿を整備し、地域の助け合い活動のなかで支援を行う
 社会福祉協議会が中心となり、地域ボランティア活動のなかで支援を行う
- 5. わからない
- 6. その他(具体的に:

)

問 35 あなたは、あなたのお住まいの地域の災害時避難場所を知っていますか。(1つに○)

1. /H / C / J	1. 知っている	2. 知らない	
---------------	----------	---------	--

問36 「地域福祉」や「福祉全般」についてご希望やご意見等がありましたら、自由にお書 きください。

記入欄:	

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れていただき、郵便ポストにご投函ください。 (切手は必要ありません。)

瑞穂市

地域福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書 令和2年3月

地域福祉高齢課